

令和4年度第1回安来市総合教育会議

開催日：令和4年11月7日（月）

13時30分～

会 場：安来庁舎301会議室

1 市長あいさつ

2 議 題

（1）安来市立小中学校適正配置について 【資料1、2】

（2）小中学校、高等学校の安来市の教育について 【資料3、4】

3 状況報告

（1）安来市 ICT 整備に伴う授業改善について

ア 小学校における Pepper の活用について 【状況報告1】

イ 情報科学高校との協働による Pepper の活用について 【状況報告2】

4 その他

安来市総合教育会議名簿

氏 名	選出区分等	備 考
田中 武夫	市長	議 長
秦 誠司	教育委員会(教育長)	
小村 修司	教育委員会(委員)	
加藤 隆志	教育委員会(委員)	
寺田 禎	教育委員会(委員)	
平野 千恵	教育委員会(委員)	

1. 概要について

社会がめまぐるしく変化する現在及び将来において、子ども達に持続可能な社会の担い手として必要な資質、能力を育むために教育環境を整える必要がある。また、学校教育では、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切である。

本市においても、年々児童、生徒数は減少しており、学校の小規模化に伴う教育上の諸問題についても、スピード感を持って丁寧に進める考えである。

これらのことを踏まえ、安来市教育委員会として「安来市立小中学校適正配置基本方針」を令和4年2月に策定した。現在は、安来市小中学校適正配置審議会（委員：20名）を設置し、この審議会からの答申に基づき、令和5年11月を目途に「安来市立小中学校適正配置 基本計画」の策定に向け検討を進めている。

2. 全体計画とスケジュールについて

○安来市立小中学校適正配置検討に向けたスケジュール

令和3年度	小中学校適正配置 <u>基本方針</u> の策定（策定済）
令和4年度、令和5年度	小中学校適正配置 <u>基本計画</u> の策定
令和5年度以降	小中学校適正配置 <u>実施計画</u> の策定

○安来市小中学校適正配置審議会

第1回	基本方針の概要説明
第2回	安来市の現状と基本方針視点1の説明
第3回	基本方針視点2と人口動態の説明
第4回	基本方針視点3及び視点4と学校運営経費の説明
第5回	安来市の適正配置基本計画に向けた答申の検討 分科会形式によるテーマ別意見交換
第6回	〃
第7回	安来市の適正配置基本計画に向けた審議の中間報告
第8回	安来市の適正配置基本計画に向けた答申の策定
第9回	〃
第10回	安来市の適正配置基本計画に向けた答申

3. 現在の進捗状況について

計10回を予定している審議会を現時点では5回開催し、基本方針に基づく視点からの検討、また説明会の開催による保護者、地域からの意見等とあわせて議論を交わし、小中学校適正配置の基本計画策定に向けた検討を行っている。

○安来市立小中学校適正配置基本計画について・・・資料1

○安来市立小中学校適正配置基本計画にかかる説明会・・・資料2

4. 今後について

審議会の開催と保護者及び地域への説明会を連携して進めながら、また、小中学校の適正配置をテーマとした講演会の開催を計画するなど、小中学校適正配置基本計画の策定に向けて、市全体の機運を高めながら検討を進める予定である。

安来市立小中学校適正配置基本計画について

1. 安来市立小中学校適正配置基本方針について

令和4年2月に策定された安来市立小中学校適正配置基本方針は、以下の4つの視点に基づき策定された。

- 1) 令和の時代に生きる子どもの「育ち」と「学び」についての視点
- 2) 学校と地域との協働についての視点
- 3) 学校施設の整備・管理についての視点
- 4) 安来市の実情に応じた規模・配置についての視点

2. 安来市立小中学校適正配置基本計画の策定について

○安来市小中学校適正配置審議会について

安来市立小中学校適正配置基本計画の策定のため、審議会へ諮問し、第1回審議会を7月6日に開催し、月1回のペースで計10回の開催を予定しており、令和5年8月を目途に答申いただく予定である。

○保護者及び地域への説明会について

策定された安来市立小中学校適正配置基本方針について、未就学児を含む小中学校の保護者の方及び地域の方を対象とした説明会を順次開催している。

交流センターを核とした地域のあり方検討委員会の進捗状況とも連携し、小中学校の適正配置について、市全体で議論が交わされる機運が高まるよう努めている。

○島根大学との連携について

島根大学教育学部（地理学研究室）との連携事業により、市内の全小中学校を対象とした「学校調査」、市内の全交流センター及び自治会を対象とした「地域調査」、及び市内3地区を対象とした「事例地区調査」が実施され、その調査結果を共有し、分析している。

あわせて、安来市教育委員会と島根大学教育学部との共催により、「みんなで考えよう！安来子どもたちと安来市立小中学校の未来 ～適正配置を見据えて～」を演題とした講演会の開催を12月に計画している。

○基本計画の策定について

安来市立小中学校適正配置基本計画については、審議会からの答申、説明会での意見等、及び島根大学との連携事業による調査データを踏まえ、令和5年11月を目途に策定する予定である。

3. 安来市小中学校適正配置審議会 委員名簿

NO	区分	所属	氏 名
1	保護者を代表する者	安来市PTA連合会	ウエダ ユウタ 上田 裕太
2	保護者を代表する者	安来市PTA連合会	タナベ ノリアキ 田邊 憲明
3	保護者を代表する者	安来市PTA連合会	カトウ ヒロミチ 加藤 寛通
4	保護者を代表する者	安来市PTA連合会	オンダ シュウジ 恩田 集司
5	保護者を代表する者	安来市PTA連合会 【副会長】	カワカミ ミチコ 川上 通子
6	小中学校の校長	安来市小学校長会	エド ノリフミ 江戸 宣文
7	小中学校の校長	安来市中学校長会	ハラ ヨシアキ 原 義昭
8	社会教育関係団体の代表者	安来市社会教育委員	オオニシ ケイジ 大西 啓治
9	社会教育関係団体の代表者	安来市交流センター連絡協議会	ナライ ジョウジ 奈良井 丈治
10	社会教育関係団体の代表者	安来市交流センター連絡協議会	ナカオ ミキオ 中尾 美樹夫
11	社会教育関係団体の代表者	安来市交流センター連絡協議会	モトヤマ ヨシヒコ 本山 禎彦
12	社会教育関係団体の代表者	安来市交流センター連絡協議会	キタガワ マサユキ 北川 正幸
13	社会教育関係団体の代表者	安来市交流センター連絡協議会	コマツバラ カヅミ 小松原 克己
14	識見を有する者	島根大学 【会長】	サクノ ヒロカズ 作野 広和
15	識見を有する者	安来市教育支援センター	ヨネダ ケン 米田 健
16	識見を有する者	安来市小中学校教頭会	イケダ 池田 さゆり
17	識見を有する者	前教育政策推進会議委員	タブチ ヒデキ 田淵 秀喜
18	識見を有する者	安来市共育協働活動推進事業 地域コーディネーター	ダテ サユリ 伊達 紗由里
19	公募により選出した者		イタガキ マナブ 板垣 学
20	公募により選出した者		フクイ カエ 福井 香衣

【事務局】

NO	所属	氏 名
1	教育長	ハダ セイジ 秦 誠司
2	教育部 部長	ハラ 原 みゆき
3	政策推進部 部長	ウヤマ トミユキ 宇山 富之
4	教育部教育総務課 課長	エンドウ コウジ 遠藤 浩司
5	教育部学校教育課 課長	ミホ タカシ 三保 貴資
6	政策推進部地域振興課 課長	イシイ ミサコ 石井 美佐子
7	教育部教育総務課 係長	アオト 青戸 かおり
8	教育部学校教育課 係長	サエキ ユリコ 佐伯 由里子
9	政策推進部地域振興課 係長	ワタナベ サトシ 渡邊 悟史
10	教育部教育総務課 主任	モリワキ タクヤ 森脇 卓哉
11	教育部教育総務課 主任	イワミ カナコ 岩見 佳奈子

安来市小中学校適正配置基本方針に係る説明会 実施状況について

安来市教育委員会では、令和3年度に策定した「安来市立小中学校適正配置基本方針」について、市内の学校、交流センターなどで説明会を開催するとともに、意見交換やアンケート調査を通じて、地域のみなさまのご意見やご質問を伺いました。

これまでのアンケート結果と、ご質問に対する現時点の考え方などを以下にまとめました。

【説明会の実施状況】

●実施時期：令和4年6月～（継続して実施中） ※10/17現在の集計

●実施状況：

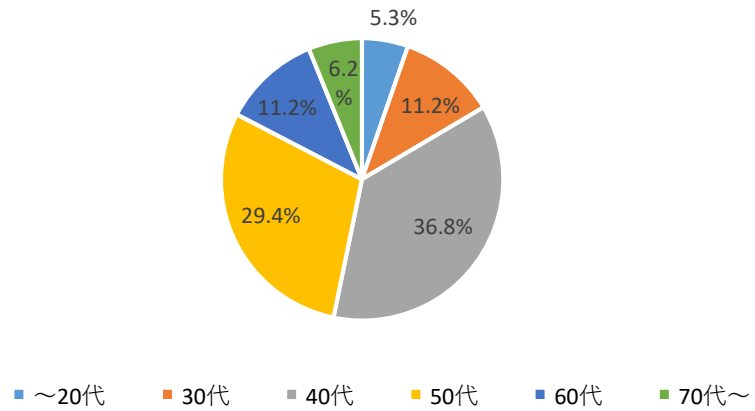
区分	会場数	参加者数(延べ)
①保護者、教職員	6	120
②地域団体、交流センター	2	71
③その他の団体等	2	139

●今後の予定：引き続き、各学校、交流センター、出前講座等での実施を予定しています。

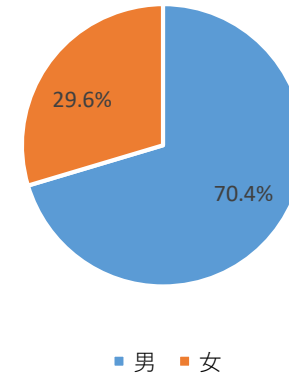


～アンケート調査より～

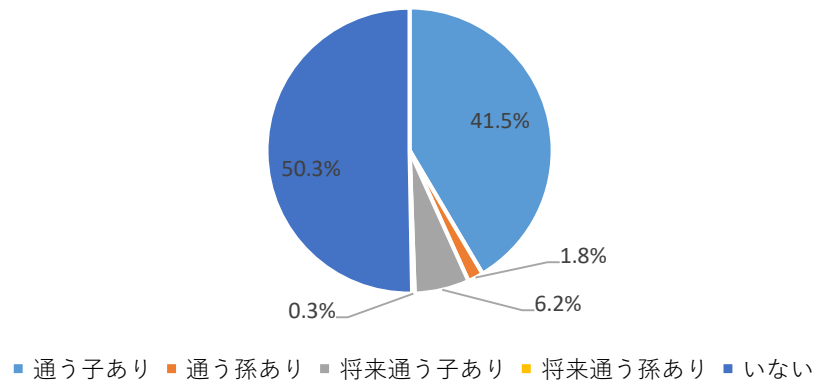
1. 参加者の年代



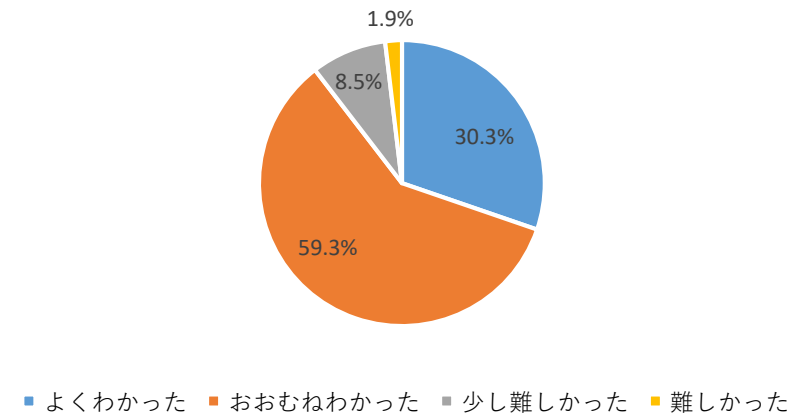
2. 参加者の性別



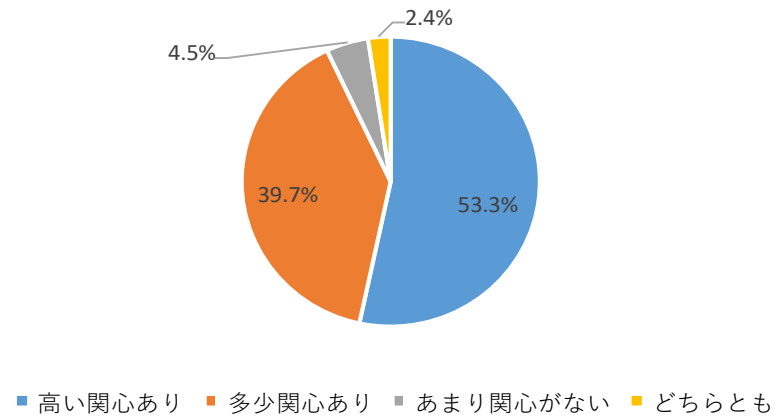
3. 家族に小中学校に通う子や孫がいるか



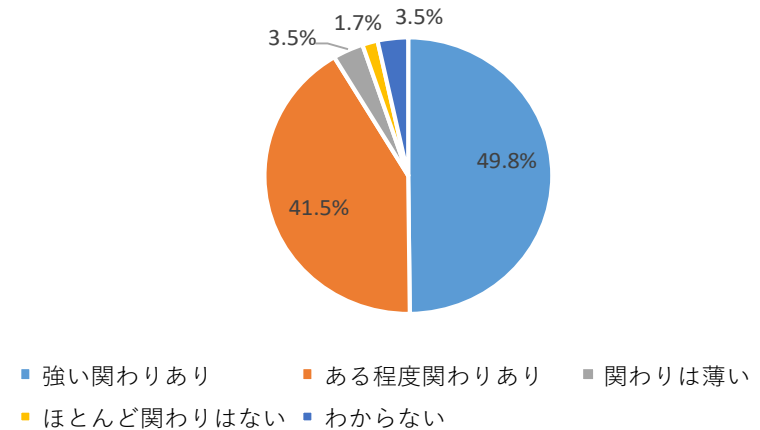
4. 説明会の内容について



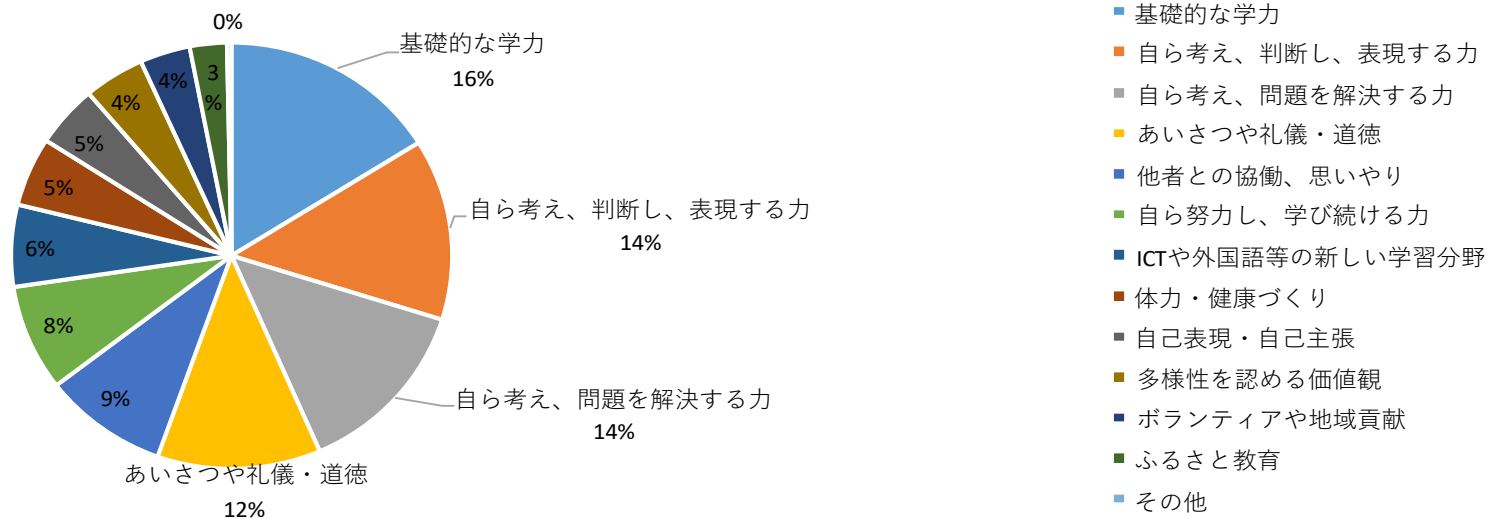
5. 学校教育や学校の適正配置への関心



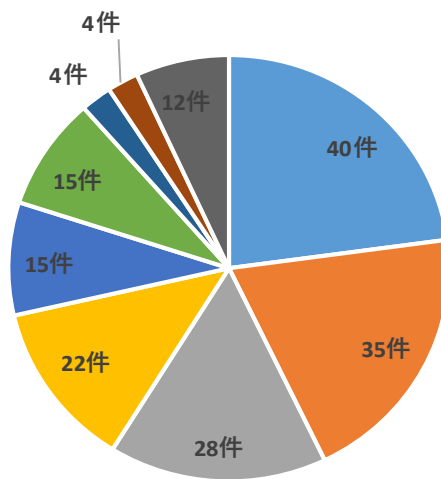
6. 地域と学校との関わりについて



7. 学校教育において、特に力を入れて欲しいこと、養って欲しい能力



8－1．現在、学校等について感じていることは？（良いところ）

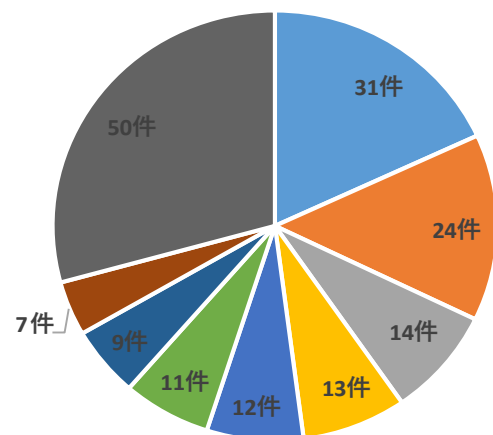


- 少人数で学年を超えたなじみの関係、安心感、のびのびとおおらか、仲がよい
- ふるさと教育、地域とのふれあい、地域や家庭との強い連携
- 素直、挨拶など基本的なことがきちんとできる
- 小規模校で様々な行事で多くの体験・活躍ができ、責任感も養われる
- 少人数で一人一人の子どもに目が行き届く、きめ細やかな指導
- 多人数による広い繋がり、多くの出会い、子どもどうしの学びあい、切磋琢磨
- 自然多く豊かな教育環境
- 中規模校で、バランスが良いと感じる
- その他

【その他のご意見】

- ・人数が多く、気の合う友達や部活動などを選べる
- ・通学が便利、安全である
- ・多様な関わりの中で人間関係を学びあうことができる
- ・小規模校では一人が自由に使える学校備品が多い
- ・学校の施設、環境が清潔、安全である ほか

8-2. 現在、学校等について感じていることは？（心配なところ）

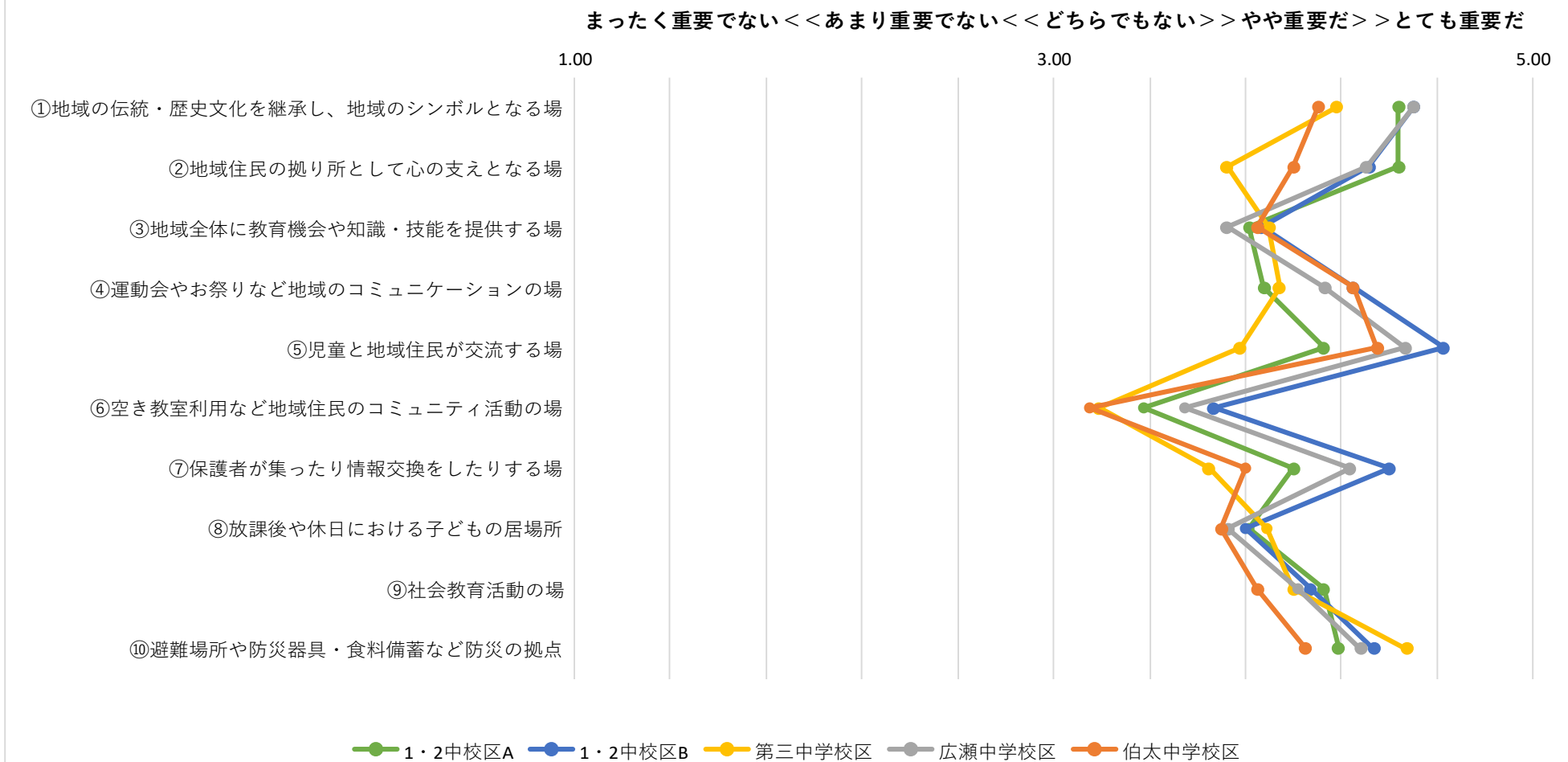


- 人数が少ないことで様々な不安、弊害を感じる（学校全体、同級生、男女不均衡、地域内）
- 少人数集団ゆえの人間関係の固定化、クラス替えがなく逃げ場がない
- 規模や経験の差から、少人数から多人数集団に入った場合の対応やコミュニケーション能力が不安
- 小人数では集団での行動が経験ににくい、社会性や、多様性を認める価値観を育みにくい
- 人数が少なく、競争や切磋琢磨する環境にない
- 自分の意見を言えない、指示待ち姿勢、自分で決断し行動できない
- 学校教育や教職員のあり方についての疑問や不安がある
- 小規模校では部活やスポ少の人数が少ない、選べない
- その他

【その他のご意見】

- ・子どもがおとなしく、パワーを感じられない、甘やかされている
- ・コロナによる制限や生活の変化
- ・社会教育活動や地域との関わりの減少
- ・放課後児童クラブがなく不便
- ・教職員の人数、業務量は適正か
- ・ICT教育やカリキュラムの増への対応
- ・メディアの使用やルール
- ・学校がなくなる不安、なくなってさびしい
- ・地域の人口減
- ・通学路の安全性や通学距離の不安、バス通学の不便
- ・現状が変わることへの不安
- ・団体生活のルール、挨拶など、基本的な生活習慣が身についているか
- ・特別な支援や対応が必要な子に細やかなケアを
- ・大規模校では目が行き届きにくいのでは。個別対応に不安あり。学校の状況もわかりにくい
- ほか

9. 学校教育活動以外に、学校が担っていると思う役割



※保護者・教職員説明会の回答のみ

～寄せられたご意見・ご質問～

区分	ご意見・ご質問	現時点での考え方
全体的な考え方、見通しなど	・適正配置の基準から外れた山間部の学校などは、統廃合となるのか。数字でなく、大切なのは教育の中身だと思う。	めまぐるしく変化する現在及び将来の社会において、子ども達に持続可能な社会の担い手として必要な資質・能力を育むために教育環境を整える視点を大切に進めていきます。
	・市教委の考えとしては、あくまで基本方針で定めた基準を重視するのか、地域の思いを聞く考えがあるのか。	主体的、協働的な学びを進めるためには、一定の規模は必要であると考えていますが、必ずしも統廃合に限らず、さまざまな視点から多角的・総合的に検討しています。また、画一的に基準を当てはめるものではないことは、基本方針の中でも確認しています。丁寧な説明会を行い、地域のお考えを伺ってまいります。
	・積極的に小規模校を残す考えはあるのか。	最終的に再編を行うか否かに関わらず、地域の小中学校の将来に向けてのあり方について、市民のみなさまと一緒に考えてまいります。
	・小規模校は手厚い指導をしてもらえ、逆に大規模であれば目が行き届かない部分も出てくるイメージ。大規模化が良いのか、疑問に感じる。	小規模校の良さもあれば、不足する点もあります。大人が見守りながら、子ども達がさまざまな学びや体験をし、自主性・主体性を育んでいくことが大切であると考えています。
	・人数が多ければ、「誰かがやるだろう」という意識が芽生えがち。主体性、自主性は育ちにくいのでは。	教育活動にはさまざまな場面があり、そういったご指摘の一面もあるかもしれません。しかし、学習面においては、今後の授業の方向性から、クラス内に一定の人数がいることで、多様な考えに触れたり、友だちと一緒に課題を解決しようとしたりすることに繋がり、学びに向かう主体性や自主性が育まれます。
	・財政理由からの適正配置検討なのか。	財政状況に関わらず、子ども達にとって最適な教育環境を考えるために必要な検討であると考えています。

	・適正配置検討の結果小規模校を残す場合、どのような考え方のもとに、支援やサポートをしてもらえるのか。	小規模校の利点が最大限生かせるように検討してまいります。
	・旧安来、広瀬、伯太の区域を超えた再編はあるのか。	さまざまな視点から検討していく考えです。
	・街部の大規模校には直接関係がないのでは。	規模の大小に関わらず、「学び」と「地域との連携」の視点に立って安来市の学校教育を考えていく必要があることから、市内全校を対象としています。
	・検討の結果統廃合などが行われる場合、どのようなスケジュールを想定しているのか。	具体的な方向性が定まった場合は、速やかに計画を策定していく考えです。
学習	・複式学級と単式学級で、学力に差は生じるのか。複式学級ではどのように指導をしているのか、学習において不利な点はないのか。	複式学級の授業は、1時間のうちに、一方の学年は教員が指導し、もう一方の学年は子ども達を中心となって学習を進めることを、交互に繰り返しながら実施します。現状において、学力学習状況調査からは、複式、単式を理由とする差は認められません。ただし、人数が固定化しているために、多様な考えを引き出しにくいという面があります。
地域との 関わり	・学校をなくすことは活力ある地域づくりに逆行し、人口減少に拍車をかけるのではないか。	この検討は、未来を担う子ども達に必要な力が身につくよう、「教育」の視点に立ち、子ども達にとって最適な教育環境を考えることを第一義としています。 一方、少子高齢化が加速する中、地域の存続も重要な課題です。持続可能な地域づくりについても検討が必要であると考えています。
	・地域から学校がなくなることの弊害をどのように考えるか。	
	・学校運営協議会とは？	現在の学校評議員制度を発展させ、地域の多様な団体等が外部から参画し、校長の示す学校運営の方針などを承認していただくものです。学校と地域が目標を共有することで、子どもとの交流や学校支援が、より質の高い協働活動となることが期待されます。

施設	・施設が老朽化している、建て替えなどの考え方は。	学校施設長寿命化計画に基づき、計画的な施設修繕等を行っていますが、追いついていない状況です。学校の適正配置検討の間は大規模改修は行わず、部分的な改修で対応することとしています。
	・施設の修繕や環境整備が不十分に感じる。	
通学	・遠距離通学となった場合の交通手段は。	通学に係る負担については、検討にあたって、非常に重要な視点の一つであると考えています。また、遠距離通学となる場合には、交通手段の確保と支援策も検討することとしています。
	・基準に通学時間60分とあるが、自宅からバス停までの移動の問題もあり、特に低学年にとっては長すぎるのではないか。	
その他	・教職員の負担が大きく、余裕をもって子どもに接することができないように思う。教職員の配置はどのように決まるのか。	教職員は、法令を基準として定数配置が定められており、学校規模に応じた適切な配置がなされています。
	・いじめや不登校などが増えているとも聞くが、学校の規模などとの関係があるのか、またその対応に差があるのではないか。	いじめの認知件数や不登校数の増加の原因については、学校規模との関係はありません。規模に関わらず、きめ細やかな対応を行っています。
	・大規模校でも、特別な支援が必要な子にきめ細やかな対応をしてもらえるのか。	学校の規模に関わらず、支援が必要な児童生徒に対しては、個別の特性に配慮しながらきめ細やかな指導、支援を行っています。
	・統廃合があった場合、跡地利用などについての考え方は。	跡地の有効活用については、地域と協議しながら進めていく考えです。

～その他のご意見～

●全般について

- ・地域から学校がなくなり、子どもの姿が消えることは寂しい。なくさないでほしいと思ってしまう。
- ・今後地域の人口や子供の数が増えることは望みにくい。今はまだよいとしても、先送りにできない段階にきたんだと感じた。
- ・人数が少なくとも安定している学校がある一方で、大きな学校でも人数が減っており驚いた。将来が不安。
- ・少子高齢化は急激に進んでいる。当事者の子どものためには、早く結論を出すべきだと思う。
- ・子供の数の減少は、学校を支える親の数の減少でもある。PTA活動なども大変に感じるようになった。
- ・昨今ニートやいじめの問題などもある。学校生活の多様な関わりの中で周囲と協調し、社会で生きていく術を学んでほしい。
- ・自分で考え、表現し、友達と考えながら課題を解決していく「アウトプット型学習」の実践には一定の人数規模が必要だ。
- ・自身の子どもの頃とは、学校の勉強の様子や、子どもに身につけさせるべき力についての考え方も変わっており、そのような学習ができる環境を作ってあげなければいけないのだとわかった。

●学校の規模について

- ・小規模校出身で、のちに大きい学校へ進学したが、特に困ることはなかった。小規模校での経験に十分満足している。
- ・大規模校では、いじめなどが見えにくくなってしまうのではないか。
- ・小規模校では、常に注目され、主役にならなければならない。負担に感じる子もいる。
- ・小規模校では、複式と単式を繰り返す学年があり、子どもにとっても先生にとっても大変だと思う。
- ・小規模校では、人数が少ないことでできない活動もあり、経験の差も生まれる。適切な教育環境といえるのか。
- ・小規模校で、同級生がいない、男女差に大きな偏りがある、というような環境は、やはりかわいそうだと思う。
- ・小規模校では、多様な考えに触れ、時に競い合いながら切磋琢磨する環境となりにくい。
- ・小規模校では、人間関係が固定化しがちである。人間関係に躓いたときに逃げ場がない。クラス替えができる人数は必要。
- ・小規模校では、部活動やスポ少の選択肢が少ない、人数が足りず試合に参加できない、文化部の種類が少ないなどの点は残念だ。
- ・小規模校から、中学、高校に進んだとき、環境変化にうまくなじめないケースもあると思う。

- ・小規模校出身で、のちに大きい学校へ進学した。初めから人数が多い学校で学びたかったと思った。
- ・小規模校では、皆に多くの活躍の場があり、積極性や主体性が育まれる。
- ・小規模校では、学年を超えた学校としての一体感の中で、皆が仲良く、思いやりを持って過ごすことができる。
- ・小規模校では、地域との繋がりが深く、特色あるふるさと学習などが行われている。学校、地域、双方にとって良い関係が構築されている。
- ・小規模校では、親同士のつながりも深く、学校の活動にも協力的である。
- ・教員の立場からは、ある程度の人数規模は必要だと感じる。

●学校と地域について

- ・すでに学校や保育園がなくなった地域では、やはり地域と子どもとの繋がりは薄くなったと感じている。
- ・小規模校ならではの良さもある。地域として小規模校で子どもを育てていくことも、積極的に選ぶべき選択肢の一つであると思う。
- ・小規模校をなくすだけでは、市街地への人口集中を加速するばかり。各地域の将来像や人口対策なども併せて考える必要がある。
- ・学校の歴史や伝統、地域の思いなどは理解できるが、未来を見て、子どもたちのためになる学校教育の在り方を考えるべきだ。
- ・大規模校を求めて出ていく人がいる一方、中山間地の豊かな自然環境での子育てを求める人もいる。地域そのものの魅力、地域づくりも重要だと思う。
- ・地域の熱意で小規模校を残したとしても、そこに住む若い世代の保護者や子どもがその学校を選ばない結果となることを危惧する。子どもファーストで議論を進め、よい教育環境を作ってほしい。
- ・学校教育と社会教育を合わせて検討しなければならない。
- ・学校がなくなった場合、跡地活用も含め、どう地域づくりをしていくかも重要な論点だと思う。

●その他のご意見・ご感想

- ・広瀬地域は面積が広い。人数が少なくとも、通学距離を考えると統合は困難。
- ・小中一貫校を導入してほしい。
- ・伯太は地域のまとまりから、場所はともかく、小学校が一つになるというのはありうると思っていた。
- ・クラス替えのこと、部活動のことなど、子どもの数からは、伯太中と二中は合わせて考えるべきなのかと思う。

- ・旧市町のまとまりにこだわりすぎなくてもよいと思う。
- ・市街地の学校に人数が集中しており、学びの環境に差ができている。大規模校でも校区の見直しなどを検討すべき。
- ・通学手段がきちんと確保されていれば、他校との合併や、よその地域の学校に通うことにあまり抵抗は感じない。
- ・子供の数は今後も減少する。かなり先を見据えて議論をしておかないと、せっかく決めても、すぐに次の対応が必要になると思う。
- ・通学のこともあり、小学校は現状のままでよいが、中学校は検討が必要だと感じる。
- ・通学の負担に配慮すべき。特に小学校低学年にとっては、負担が大きすぎると、学びに向かう意欲すらなくなる。
- ・適正な学校の規模、数とすることで、学校施設の維持管理もしやすくなり、子どもたちがよりよい環境で学習できる。
- ・現行バス通学をしているが、待ち時間や運行時刻のことなど不便も多い。不利益がないよう配慮してほしい。

令和4年度安来市の学校教育

- 【安来市学校教育の基本目標】
- 【学力の向上の取組】
- 【安来のふるさと教育イメージ】
- 【発達や学びの連続性について】
- 【小中連携の取組】

I 各園・学校の住所・学級数等一覧

- 1 住所・電話番号
- 2 園児・児童・生徒数及び学級数

II 安来市の研究指定事業等

- 1 研究等指定事業
- 2 教職員研修の計画

III 各園・学校テーマ別一覧

- 1 教育目標
- 2 研究主題
- 3 特色ある教育
- 4 学力向上の取り組み（小中学校）

IV 各園・学校のページ

- 1 幼稚園
- 2 小学校
- 3 中学校

I 安来市学校教育の基本目標

安来市教育大綱より

基本目標① 確かな学力を育てる教育の推進

新しい時代に必要となる資質・能力を育てるため、「知識・技能」の習得、「学ぶ意欲」の涵養、「思考力・判断力・表現力」の育成を図ります。さらに、子ども自らが主体的・対話的に深く学ぶ授業や細やかな指導を通して、個々の能力を引き出し伸ばすとともに、自分で課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に問題を解決する資質や能力を育みます。

【主な取組み】

○学力の向上 ○外国語教育 ○情報活用教育 ○特別支援教育

基本目標② 豊かな心を育てる教育の推進

豊かな心は、人を思いやる心や自然や美しいものに感動する心、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切に作る心などです。心の教育を推進し、感性や道徳心、人権感覚や態度を育て、自他を尊重し、地域社会でともに生きる人間性や社会性を育みます。

【主な取組み】

○ふるまいの向上 ○人権教育（後掲） ○道徳教育 ○いじめの未然防止

基本目標③ 健康な心身を育てる教育の推進

心身の健康は、生涯にわたって輝いて暮らす活力の基となります。生活習慣や食育に関する指導や体力・運動能力を高める指導、自らの生命を守るための安全教育を通して、心身の健康の保持増進を図るとともに、たくましい体を育みます。

【主な取組み】

○体力づくり ○食育 ○生活習慣づくり ○安全教育

基本目標④ ふるさと教育の推進

ふるさとと安来の豊かな自然、ひと、もの、ことを通した教育を推進し、ふるさとに携わり豊かに生きる人々と関わることを通して、ふるさとに愛着を持ち、貢献しようとする心や態度を育むとともに、広い視野と国際的な感覚をもった子どもを育みます。

【主な取組み】

○ふるさと教育（後掲） ○キャリア教育 ○環境教育

基本目標⑤ 学びを支える教育環境の充実

子どもたちが安心して学べるよう経済的支援の充実や、特別な配慮を必要とする子どもたちへの支援の充実を図るとともに、一人ひとりの社会的な自立に向けた能力や態度を育てるため、保育所・認定こども園・幼稚園・小学校・中学校間の連携体制づくり、『社会に開かれた教育課程』の実現に向けて学校・家庭・地域の連携協働体制の整備等、地域全体で教育に取り組む体制づくりを推進します。

また、子どもたちが安全で安心して学校生活を送り、自らの力を発揮できるよう快適な教育環境の充実のため、施設・設備等の整備を進めます。

子どもたちが充実した学校生活を送るために、教員の指導力の向上を図るとともに、ゆとりを持って子どもたちと向き合えるよう、学校運営の改善を進めます。

【主な取組み】

○就学援助費の充実 ○インクルーシブ教育システムの構築
○保幼小中の連携推進 ○学校・家庭・地域の連携協力体制の整備
○学校施設の維持管理 ○ICT環境の整備 ○学校の業務改善

安来市の学力向上（授業改善）の取組について

ふるさとを愛し 未来を たくましくきり拓き
社会に貢献する 心豊かな人づくり

- ・ 知・徳・体の調和的な発達を通して、社会や人との関わりの中で主体的に生きる力を備えた子ども
- ・ 郷土に誇りと愛着をもち、世界に羽ばたく夢と希望にあふれる子ども
- ・ 人権意識をもち、差別を許さない実践力のある子ども

各学校がめざす児童生徒の姿

- ・ ICTを活用した家庭学習の工夫
- ・ 授業と家庭学習を結び付けた実践

意欲的・主体的に学ぶ子どもの育成
(キャリア教育の推進)

家庭学習の充実を図る
取組

3

安来市学力育成プロジェクトの取組の情報共有・
発信

教員一人一人の
授業改善の取組

- ・ 安来市学力育成協議会
- ・ 安来市教研との連携
- ・ 市内高等学校との連携

主体的・対話的で深い
学びの視点に立った
授業改善の取組

2

- ・ 学校訪問で聞き取り
- ・ 学力向上担当者研修
- ・ 授業力向上研修会の開催

子どもたちが学びたくなる
授業づくり
(キャリア教育の視点をもって)

- ・ ICT活用支援
- ・ 「TRY ICT やすぎ」による
情報共有・発信

1

組織的な取組

個別最適な学びと協働的
な学びを一体的に充実さ
せる取組

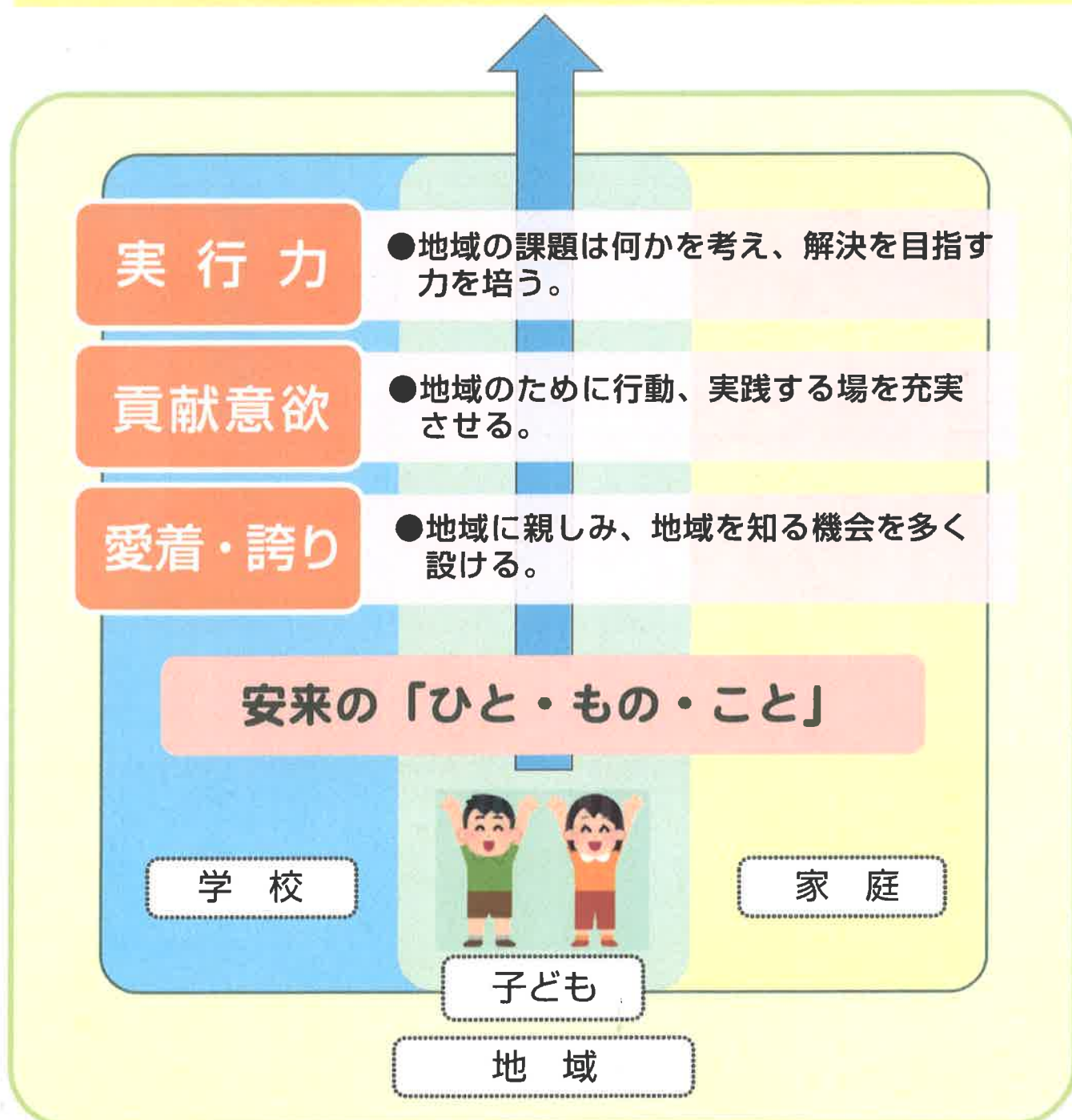
学校経営の重点

安来市のふるさとと教育

安来市 学校教育の充実 基本目標④(安来市教育大綱)

○ふるさと教育の推進

ふるさと安来の豊かな自然、「ひと・もの・こと」を通した教育を推進し、ふるさとに携わり豊かに生きる人々に関わることを通して、ふるさとに愛着を持ち、貢献しようとする心や態度を育むとともに、広い視野と国際的な感覚をもった子どもを育む。



発達や学びの連続性（学びの基礎力の育成）構造図



安来市教育委員会

生きる力と夢を育む安来の教育

～「やるき」「すなお」「げんき」～

児童期の教育

連携・交流

幼児期の教育

社会 算数 理科 道徳 国語 音楽 生活 図工 特別活動 家庭 体育

総合的な学習の時間

外国語・外国語活動

教科等の学習を中心とした指導

学力の三つの要素（自覚的な学び）

基礎的な
知識・技能

課題解決のために必要な
思考力・判断力・表現力等

主体的に学習に取り組む
態度

直接的・具体的な
対象とのかかわり

三つの自立（学びの芽生え）

円滑な接続

学びの自立
（学ぶ力）

生活上の自立
（生活する力）

精神的な自立
（かかわる力）

思考力の
芽生え

豊かな感性と
表現

協同性

社会生活との
関わり

自立心

自然との関わり
・生命尊重

数量・図形、
文字等への
関心・感覚

道徳性・規範
意識の芽生え

健康な心と体

言葉による
伝え合い

幼児期の終わりまでに
育ってほしい10の姿

遊びを通した総合的な指導

園

家庭

健康

人間関係

表現

生きる力の基礎となる
心情・意欲・態度

環境

言葉

預かり保育

地域

生活の連続性

PDCAサイクルですすめる小中連携の取組の推進

校区で連携してすすめる

安来市教育委員会

魅力ある学校づくりの推進



不登校の未然防止と初期対応

A

C

D

授業を通じた集団づくり

P

不登校傾向の児童生徒の初期対応

重点化
と
徹底

A

新たな授業改善

C

D

意識調査

取組の適切さを確認

8項目の
調査を年
3回実施
します。

取組の計画

↑

目標の設定

↑

校区共通課題

の抽出

(H28.5~)

↑

意識調査

(H28.3実施)

授業改善

居場所づくり
絆づくり

- ・一中校区のノウハウ
- ・全国のノウハウ

安来市の小中学生の実態

- 学校生活に概ね満足している
- △不登校数が再び増加(安来市内中学校)
- △学習意欲、進路意識が総じて低い
- △自尊感情、自己有用感が低い
- △学習習慣が定着していない

H28年度
から市内
全域に
取組を広
げていま
す

授業改善のポイント
「子どもを中心に据えた授業づくり」
の推進

安来一中校区の取組の成果 (H26~27年度魅力ある学校づくり調査研究事業より)

- 「授業に主体的に取り組んでいる」の数値が向上
- 校区共通の意識・スタイルが確立
- 「めあて」「振り返り」のある授業の実施率が向上
- 一中の不登校数の減少 2025年度12名→H27年度7名)

Ⅲ 各園・学校の住所・学級数等一覧

1 住所・電話番号

安来幼稚園	〒692-0011 安来市安来町 8 5 3	22-2129
島田こども園	〒692-0025 安来市穂日島町 4 8 5	22-5325
宇賀荘幼稚園	〒692-0056 安来市清井町 3 2 3-1	(休園中)
能義こども園	〒692-0055 安来市飯生町 5 6 6-8	(休園中)
認定こども園荒島	〒692-0007 安来市荒島町 1 2 6 3	28-8510
十神小学校	〒692-0011 安来市安来町 8 4 3-3	22-2010
社日小学校	〒692-0012 安来市宮内町 1 0 1	22-6345
島田小学校	〒692-0025 安来市穂日島町 4 8 5	22-2531
宇賀荘小学校	〒692-0056 安来市清井町 3 0 0	22-2364
南小学校	〒692-0035 安来市清瀬町 2 3 0	22-2807
能義小学校	〒692-0055 安来市飯生町 2 6 5	22-2854
飯梨小学校	〒692-0063 安来市植田町 3 9 8	28-6417
荒島小学校	〒692-0007 安来市荒島町 2 7 2 8	28-6186
赤江小学校	〒692-0001 安来市赤江町 1 8 4 3	28-8009
広瀬小学校	〒692-0404 安来市広瀬町広瀬 7 5 1	32-2388
比田小学校	〒692-0731 安来市広瀬町西比田 1 6 5 9-1	34-0014
山佐小学校	〒692-0413 安来市広瀬町上山佐 6 0 8-1	35-0017
布部小学校	〒692-0623 安来市広瀬町布部 1 1 5 2	36-0200
安田小学校	〒692-0206 安来市伯太町安田 1 2 1 3-1	37-0058
母里小学校	〒692-0212 安来市伯太町西母里 1 0 4 0-1	37-1099
井尻小学校	〒692-0213 安来市伯太町井尻 8 5 9-2	37-1032
赤屋小学校	〒692-0321 安来市伯太町赤屋 1 2 3	38-0004
第一中学校	〒692-0014 安来市飯島町 7 9 2	22-2250
第二中学校	〒692-0037 安来市吉岡町 7	22-2859
第三中学校	〒692-0003 安来市西赤江町 3 9 5	28-8534
広瀬中学校	〒692-0403 安来市広瀬町富田 1 4 7 0	32-2389
伯太中学校	〒692-0212 安来市伯太町西母里 9 4 0-6	37-1007

2 園児・児童・生徒数及び学級数

令和4年5月1日現在

	3歳児	4歳児	5歳児	計
安来幼稚園	8	9	11	28
島田こども園	3	4	6	13
宇賀荘幼稚園	休園中			0
能義こども園	休園中			0
認定こども園荒島	10	12	13	35
計	21	25	30	76

1歳児13人、2歳児13人
1

外数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	学級数	支援学級児童数	合計
十神小学校	59	53	59	56	56	56	339	14	知2 情6	347
社日小学校	24	34	29	26	25	32	170	9	知1 情5	176
島田小学校	30	25	27	19	20	28	149	9	知2 情1 肢2	154
宇賀荘小学校	8	7	6	9	6	5	41	6	知1 情1	43
南小学校	9	13	11	9	12	9	63	8	知2 情2	67
能義小学校	10	14	4	9	9	8	54	7	知1 情2	57
飯梨小学校	3	5	8	1	5	9	31	3		31
荒島小学校	31	20	29	31	23	29	163	8	知3 情3	169
赤江小学校	28	41	30	51	42	48	240	12	知5 情8	253
広瀬小学校	32	34	24	36	35	44	205	12	知1 情7	213
比田小学校	2	5	2	4	5	5	23	4	情2	25
山佐小学校	1	1	4	0	1	1	8	4	情1	9
布部小学校	0	4	3	1	1	3	12	4	知2	14
安田小学校	9	15	13	6	16	16	75	8	知1 情3	79
母里小学校	8	7	10	14	11	11	61	8	知4 情2	67
井尻小学校	3	3	1	3	3	5	18	4	情1	19
赤屋小学校	3	2	1	4	7	2	19	5	知1 情1	21
計	260	283	261	279	277	311	1671	125	73	1,744

※ 学年間の罫線がないところは、複式学級

外数

	1年	2年	3年	小計	学級数	支援学級生徒数	合計
第一中学校	151	124	144	419	17	知1 情11 病3	434
第二中学校	26	28	23	77	5	知1 情2	80
第三中学校	44	46	58	148	9	知3 情8 病1	160
広瀬中学校	41	48	60	149	8	知2 情4	155
伯太中学校	31	41	34	106	6	知5 情4	115
計	293	287	319	899	45	45	944

II 安来市の研究指定事業等

1 研究等指定事業

■スクールカウンセラー活用事業（令和4年度県教委）

- ・中学校…第一中，第二中，第三中，広瀬中，伯太中
- ・小学校…十神小，社日小，島田小，宇賀荘小，南小，能義小，飯梨小，荒島小，赤江小，広瀬小，比田小，山佐小，布部小，安田小，母里小，井尻小，赤屋小
- ・配置スクールカウンセラー数：11名

■スクールソーシャルワーカー活用事業（令和4年度 県教委，安来市教委）

- ・配置スクールソーシャルワーカー数：2名

■小学校における不登校等対応体制充実事業（令和4年度 県教委）

- ・十神小（配置子どもと親の相談員数：1名）

■いじめ対応支援事業（令和4年度 県教委，安来市教委）

- ・全ての小・中学校

■学校司書等による学びのサポート事業（令和4年度 県教委，安来市教委）

- ・全ての小・中学校

■令和4年度安来市学校人権・同和教育推進連絡協議会研究指定校事業

- ・第一中学校ブロック＜島田小＞ ・第二中学校ブロック＜南小＞
- ・第三中学校ブロック＜飯梨小＞ ・広瀬中学校ブロック＜比田小＞
- ・伯太中学校ブロック＜井尻小＞ ・幼稚園部＜島田こども園＞

■共育協働活動推進事業（令和4年度 地域振興課・安来市教委）

- ・広瀬中学校区，伯太中学校区，安来第一中学校区
安来第三中学校区，安来第二中学校区

■ICT活用教育研究指定（令和3・4年度 安来市教委）

- ・伯太中学校区

■しまねの学力育成プロジェクト（令和4・5・6年度 県教委，安来市教委）

- ・第三中，荒島小

2 教職員研修の計画

■学力向上

学力向上担当者研修	年 1 回
算数・数学授業力向上実践研修	年 1 回
外国語教育授業力向上研修	年 1 回
情報活用能力育成研修	年 1 回

■幼保小中連携

幼稚園，保育所（園），認定こども園職員，小学校 1 年担当 年 2 回

■人権・同和教育

「教職員の人権意識を高める」 年 1 回 全保幼小中訪問研修
 学人同協との共催研修
 転入教職員研修

■生徒指導・教育相談

「ケース検討」随時 希望校へ訪問研修，「校内研修会」随時 希望校へ訪問研修
 生徒指導に関する研修会

■特別支援教育

「特別支援教育コーディネーター会」 年 2 回
 「特別支援教育研修」 年 1 回
 「特別支援学級の教育課程説明会」 年 1 回
 「ケース検討」随時（希望校へ訪問研修），「校内研修会」随時（希望校へ訪問研修）

■道徳・平和学習

ふるさと教材活用研修 年 1 回

■ふるさと教育

ふるさと教育教職員研修 夏季休業中に 2 回
 学校と地域の連携実践研修 年 1 回

■図書館を活用した教育

学校司書研修 年 3 回

■ICT 活用教育

ICT 利活用研修 複数回

学校訪問計画

■小中学校学力向上聞き取り訪問	全 校	年 2 回
■小中学校生徒指導聞き取り訪問	全 校	年 2 回
■子ども読書活動推進事業実施状況聞き取り訪問	全 校	年 1 回
■特別支援教育に係る状況聞き取り訪問	全 校	年 2 回
■プログラミング教育授業訪問	随時	

- ・ その他各学校の要請に応じて，随時担当指導主事が訪問し支援します。
- ・ 福祉部門等との連携が必要な場合は，要保護児童対策地域協議会で対応します。
- ・ 不登校児童生徒への支援は，「教育支援センターあすなろ」が行っています。児童生徒の支援だけでなく，学校での相談活動の支援や保護者や教職員への支援もします。

Ⅳ 各園・学校テーマ別一覧

1 教育目標

安来幼稚園	～ たくましく 心豊かに伸びる幼児の育成 ～ 具体目標 ・明るく伸び伸びと行動し思いを素直に表現する子ども ・体を動かす楽しさを感じる子ども ・約束を守って生活し楽しんで遊ぶ子ども ・お互いの思いや考えを認め合い関わりあい協力し合う子ども ・友だちや先生の話聞き自分で考え行動できる子ども
島田こども園	心豊かにたくましく 未来を拓く子どもの育成 ～島田大好き 友だち大好き ひとみ輝く島田の子ども～ ○明るく元気な子ども ○自分から遊びを見つけ、夢中になって遊び込む子ども ○友だちとなかよくしようとする子ども
宇賀荘幼稚園	(休園中)
能義こども園	(休園中)
認定こども園 荒島	～子どもたちの健やかな育ちをめざして～ ・心身ともに健やかな子ども ・自分の思いを表現できる子ども ・意欲的に遊びを楽しむ子ども ・思いやりのある子ども ・食を楽しみ、食に関心をもつ子ども
十神小学校	「学びあい 磨きあい 鍛えあいながら たくましく実践する子どもの育成」 《めざす子ども像》 ○ともに話し合い、考え、学びを深める子（自ら学ぶ子） ○かかわりの中で、温かい人間関係を築ける子（思いやりのある子） ○みんなと進んで体を動かし、健康・安全に生活する子（元気な子）
社日小学校	「豊かな心を持ち 心身ともに健やかで たくましく生きる子どもの育成」
島田小学校	「しなやかな感性を持ち、真剣に学び、優しくたくましい島田っ子の育成」 ～ めざす児童像 「し・ま・た の子」～ ㊟ しんけんに学習する子（知） ㊟ まわりのともだちにやさしくする子（徳） ㊟ たくましくがんばる子（体）
宇賀荘小学校	「地域とともに 仲間とともに 未来を創る 心豊かな人づくり」 <めざす子どもの姿> 伝え合う…進んで学び 伝え合う児童 認め合う…思いやりがあり 認め合う児童 挑戦する…健やかな体づくりとねばり強く挑戦する児童
南小学校	「豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成」 合い言葉「みんな なかよし みな元気」 ○しっかりと考えることができる子 ○友だちとなかよく生活する子 ○心も体も元気にすごす子

能義小学校	「伝え合い、響き合い、磨き合い、学びを深める子どもの育成」 のびのび表現する子…主体的な学び、表現する力 自分の力での解決 きづかうやさしい子…思いやり、豊かな心 友達の考えの尊重 つよい体をつくる子…強くしなやかな心と体、自律した生活 こきょうを愛する子…ふるさと能義への愛着と誇り
飯梨小学校	豊かな心をもち、進んで学び、たくましくやり抜く子どもの育成 ○強い子 …夢や目標に向かって、高め合う子 ○かしこい子 …進んで自らの思いを伝え、学び合う子 ○すなおな子 …思いやりの心をもち、自他を認め合う子
荒島小学校	心も体もたくましく、ありのままの自分を表現できる子どもの育成 ・学ぶ喜びを知り、あたまを鍛えていける子（知） ・協働する喜びを知り、こころを磨いていける子（徳） ・汗を流す喜びを知り、からだづくりができる子（体）
赤江小学校	「心豊かで 強く 正しく生きる子どもの育成」 ・進んで学ぶ子（知）「自分の考えを持ち、友達と学びを楽しむ子」 ・仲良く助け合う子（徳）「友達の痛みや思いを感じ、進んでかかわる子」 ・明るくたくましい子（体）「命を大切にし、自分のめあてにチャレンジする子」
広瀬小学校	学びあい 磨きあい 鍛えあいながらたくましく生きる子どもの育成 ○よく考え、勉強にはげむ子ども（自主性・創造性） ○明るく、豊かな心をもつ子ども（人間性豊かな情操） ○たくましく、ねばり強い子ども（健康と強い意志）
比田小学校	「比田を愛し、自ら学び、心豊かでたくましく生きる子どもを育てる」 《めざす子ども像》 自ら学び、考え表現しようとする子 「かしこく」 認め合い、協力して行動しようとする子 「なかよく」 進んで健康・安全な生活をしようとする子 「たくましく」
山佐小学校	元気あふれる子どもの育成 ○めざす学校像 「楽しい学校 元気な学校」 ○めざす児童像 や やわらかい頭・・・進んで学ぶ子 ま まけない体・・・元気でやり抜く子 さ さわやかな心・・・優しく助け合う子
布部小学校	豊かな心をもち、すこやかで、たくましく生きる子どもの育成 (1) めざす学校像 笑顔があふれ、笑い声がこだまする学校 (2) めざす子ども像と具体的姿 ・考え行動する子ども（知） ・励まし助け合う子ども（徳） ・強く、やりぬく子ども（体）
安田小学校	○やさしく ○すこやかに ○だれもがまなびあう安田小学校 ・やさしく助け合う子（やさしく） ・明るく元気な子（すこやか） ・よく学び考える子・すすんでとりくむ子（まなびあう）

母里小学校	豊かな心をもち、健康で力強く挑戦していく子ども」の育成 《めざす子ども像》 ○本 気…真心を尽くし、人を大切にする子 ○やる気…目標に向かって、自ら学び、考え表現する子 ○元 気…進んで体をきたえ、守り、がんばりぬく子
井尻小学校	「夢をもち 心も体も 豊かに生きる児童の育成」 ＜めざす子ども像＞ - いっぱい笑顔：互いに分かり合える明るい子ども - じっくり学ぶ：進んで学び、表現する子ども - リズムあるくらし：元気いっぱい行動する子ども
赤屋小学校	豊かな心をもち 健康でたくましく生きる子どもの育成 ＜めざす子ども像＞ - あかるく たくましい子（たくましい体） - かんがえ つくりだす子（確かな学力） - やさしく 思いやりのある子（豊かな心）
第一中学校	「高い知性と豊かな心をはぐくみ、たくましく実践する生徒の育成」 《校訓》 自主 剛健 創造 協力
第二中学校	『広い視野に立ち 安来の未来を切り拓く 心豊かな生徒の育成』
第三中学校	温かくたくましい人間力をもった生徒の育成 ○自主：自ら考え判断して行動し、生涯にわたって学び続けようとする意欲をもった生徒 ○誠実：真心を込めて行動し、責任を果たす実行力のある生徒 ○協同：自他を大切にする研かれた人権感覚をそなえ、助け合いながら切磋琢磨する生徒 ○健康：心身ともに健康で、個性豊かな、活力ある生徒
広瀬中学校	「ふるさとを愛し 人間性豊かに たくましく生きる生徒の育成」 《校訓》 進取向上 【年度重点目標】 「信頼・絆を礎に、夢を語り、挑戦する生徒の育成」
伯太中学校	教育目標 「豊かな人間性と自主的精神に満ちた生徒を育てる」 【校訓】 「 独立 協力 技術 」 【年度目標】 「トライアル&エラー 地域とともに進化する伯太中」

2 研究主題

安来幼稚園	「互いの存在を認め合う心を育てる保育者のあり方」 ～多角的な視点で子ども理解をする幼稚園をめざして～
島田こども園	人とのつながりの中で 自分らしさを発揮しながら共に育ち合う 子どもをめざして
宇賀荘幼稚園	(休園中)
能義こども園	(休園中)
認定こども園 荒島	「子ども理解を深め主体的に生きる力を育む」 ～異年齢保育を通じた職員の協働性の本質を見つめて～
十神小学校	「確かで豊かな言葉でつながり合う子どもの育成」 (3年次) ～つきたい力を明確にした説明的な文章の指導を通して～
社日小学校	「確かで豊かな言葉でつながり合う子どもの育成」 ～主体的に学び、ともに高め合う文学的な文章の学習を通して～
島田小学校	「確かで豊かな言葉でつながり合う子どもの育成」 ～自分の思いや考えを言葉で表現し ともに学び合う授業づくりを通して～
宇賀荘小学校	「互いを認め合い、なかまと共によりよく生きようとする子どもの育成」
南小学校	「令和の日本型学校教育」をめざす実践研究 ～個人研究を通して～
能義小学校	「自ら考え、ともに学び合い、課題を追究する子どもの育成 ～伝え合い、響き合い、磨き合い、学びを深める子どもの育成～」
飯梨小学校	自他ともに大切にできる子ども、主体的に行動し、たくましく生きる子どもの育成
荒島小学校	主体的に取り組み、自分の思いを進んで表現しようとする子どもの育成 ～算数科を通して～
赤江小学校	「主体的に取り組み、深い学びへと向かう子どもの育成」 ～思考を助ける学習の方法や場の工夫を通して～

広瀬小学校	自ら考え ともに学び 高めあう 子どもの育成 ～対話を通して課題にせまる指導のあり方～ (1年次)
比田小学校	自分の思いや考えをもち他者の思いを受けとめ、自分の考えを深めようとする子どもの育成 ～特別の教科 道徳の実践を通して～
山佐小学校	「主体的に考え、心豊かに学び合う子どもの育成」 ～自己を見つめ、他者とつながって考えを深め合う道徳の授業づくり～
布部小学校	自分の思いや考えをもち、主体的に学び、表現する子どもの育成
安田小学校	教科のねらいに迫るICTの特性を生かした授業づくり 「もっと知りたい、伝えたい」～主体性を高める学習過程の工夫～
母里小学校	「自ら考え、伝え合い、高め合う子どもの育成」 ～これからの時代を生きる力を育むICT活用教育～
井尻小学校	「課題意識をもち、自分の考えや思いを伝え合い高め合う子どもの育成」
赤屋小学校	自らの学びを広め、深め、進んで表現する子どもの育成 ～ICTの活用と「きめる」学びのある授業づくりを通して～
第一中学校	つながり、高め合う生徒の育成 ～生徒が主体的に取り組む授業のための指導と評価のあり方～
第二中学校	「総合的な学習の時間を軸とした教科横断的カリキュラムの構築」 ～生徒の社会的な自立と、確かな学力の育成をめざして～
第三中学校	豊かな関わり合いの中で、主体的に課題を解決していく生徒の育成
広瀬中学校	「未来へつながる思考力・判断力・表現力の育成 ～互いが高まる伝え合い活動を通じて～」
伯太中学校	「協働的に学び、課題を解決しようとする生徒の育成」 ～ICTの効果的な活用を通して～

3 特色ある教育

宇賀荘幼稚園、能義こども園は休園中

安来幼稚園	・様々な世代間交流を通じた“関わる力”の育成 ・地域を知る活動や伝統文化にふれる“ふるさと教育” ・食育、社会体験、園外活動などの“体験活動”
島田こども園	○広い自然豊かな園庭を生かした、しなやかな心と体を育む保育 ○地域支援や地域の特性を生かしたふるさと教育 ○豊かな情操を育むための活動 ○小学生や他園の友達との交流活動
認定こども園 荒島	① ふるさと教育の推進 ・長寿会、童話のサークルの方々をはじめ地域の「人・物・自然」に触れ合いながら、ふるさとやそこで暮らす人々に親しみを持つ心を育む。 ・親子銭太鼓作り、安来節踊り、荒島踊りなどの郷土の文化芸能を体験し地域の方々と共に楽しむ。 ② 食を大切にする ・給食を通して「食べる」ことの大切さを知らせ、子ども達にとって現在、将来にわたって生きてくる活動の推進。 ・子ども達と栽培した野菜の収穫や近隣の山、畑で採らせて頂いた自然物（梅の実、わらび・たけのこなど）を自分たちの手で調理し食する喜びを味わう活動の推進。
十神小学校	○ふるさと教育の特色 - 郷土の歴史、自然と文化・産業を生かし、自ら課題をもって取り組む「まち探検」および「郷土芸能体験活動」「ヤスキハガネ」を取り入れた生活科、総合的な学習の時間を進めることで地域に根ざしたふるさと教育を行っている。
社日小学校	○「島根県国語研究大会安来大会」に向け、国語科を中心とした研究を推進する。 ○芝生化された校庭を活用する。 ○韓国守山初等学校との交流活動を深める
島田小学校	○地域支援員さんとの連携による教育 ・地域の伝統や産業などについてのふるさと学習の充実 ・教科学習やクラブ活動等で地域の教育資源を活かす活動 ○体力づくりの推進 ・マラソン大会や芝生を活用した体力づくり
宇賀荘小学校	○地域に誇りと愛着を感じる子どもを育てるふるさと教育 ・地域の歴史、文化や体験活動を取り入れたふるさと学習 ・学校、家庭、地域の三位一体で子どもを育てる協働学習 ○一人一人を大切にしたい教育活動と仲良しファミリー（縦割り班）活動の充実
南小学校	○地域の特色を生かしたふるさと教育の推進 - 安来節踊り・銭太鼓〔文化〕・大豆づくり〔自然・産業〕 - 森林教室〔自然・産業〕・吉田川の活動〔自然・文化〕・・・環境教育 - 総合プロデュース南小〔自然・産業〕・・・消費者教育、起業家教育 ○全校活動や縦割り班活動を中心とした集団づくり

能義小学校	○地域資源（自然・人・社会等）を活かした体験活動や交流活動等を通して、主体的に学びに向かう意欲、豊かな心と感性を育む「ふるさと教育」の推進 ○「今月の詩」の音読・暗唱、学級ごとに学習内容を発表し合う「のきっこ集会」等音声言語による表現活動の工夫 ○子どもたち相互の温かい人間関係を育む、「のきっこファミリー班」活動の展開
飯梨小学校	○人権・同和教育の推進・・・地域と連携した人権学習 ○ふるさと教育の推進・・・豊かな自然や文化、人材 ○連携教育の推進・・・安来三中校区連携推進委員会
荒島小学校	○郷土の偉人や地域の特産物、歴史的文化遺産などをテーマにした学習を「社会」、「総合的な学習の時間」等で地域関係団体の継続的な支援の下、実施する。 ○異学年によるペアやグループでの活動を多く取り入れ、関わり合うことの楽しさを体験的に理解させ、望ましい人間関係づくり・集団づくりをめざす。
赤江小学校	○生活科、社会科、総合的な学習の時間、クラブ活動等の学習を通して、赤江地区のひと・もの・ことに興味や関心をもって関わり、ふれあいを深める。その体験を通して自然環境のすばらしさ、歴史や伝統を守り受け継いでいく地域社会のよさを発見し、郷土を愛し大切に教育を進める。 ○50年目を迎えた大阪府羽曳野市の白鳥小学校との交流を通して、ふるさと安来の伝統芸能を披露したり、大阪の伝統・文化を理解したり、多くの人と交流したりして、ふるさとへの愛着と誇りを育てると共に、よりよい人間関係づくりの素地を養う。
広瀬小学校	○特別支援教育の推進…子どもたち一人一人の個々のニーズを理解するとともに、縦割り班活動等を活用した仲間意識の育成に努める。 ○ふるさと教育の推進…ふるさと広瀬のひと・もの・ことに触れ、心豊かな人間性・社会性の育成に努める。 ○学校図書館の充実…図書館活用教育、読書活動の充実を図る
比田小学校	ふるさと教育の充実 比田の「ひと・もの・こと」を生かした探究的学習を推進し、ふるさとへの愛着や誇りをもち、地域貢献をしようとする子どもを育成する
山佐小学校	山佐小学校区の「ひと、もの、こと」にふれる活動を通して、ふるさとのよさを見つけ、ふるさとを大切にしようとする態度を育てる。 ○意図的・計画的なふるさと教育の推進 ○地域や縦割り組織のよさを生かしたふるさと教育の展開 ○「地域で学ぶ機会」や「地域と学ぶ機会」の充実
布部小学校	・全校縦割り班での活動を様々な場面で取り入れること、地域の文化・伝統を教材化すること、地域へ出かける・地域の方を講師とした体験的な学習活動を行うこと ・ふるさとの自然や文化、伝統、芸能、先人の苦労や偉業を学び、ふるさとへの誇りと愛着をもつ
安田小学校	(1) 全教育活動を通じて、人とよりよく関わる力を培い、お互いに認め合う温かい集団づくりを推進する。 (2) 地域のよさや課題を取り入れた教育を推進することにより、自ら課題に向かって追求する力を育てる。 (3) 学校・PTA・地域一体となった安全教育を推進する。
母里小学校	将来をたくましく生き抜くため、地域の教育資源を活用し、学校・家庭・地域が子どもを真ん中に置き「チーム母里」として、様々なことに挑戦する交流・体験活動を進め、将来をたくましく生き抜くために必要な人間力の基礎づくりを行う。

井尻小学校	○小規模校のメリットを活かした学校教育活動 豊かな教育資源を最大限に活かし、あたたかい地域の人との交流や、比婆山や伯太川をフィールドにした地域の文化や歴史・自然とふれあう学習活動を積極的に取り入れている。
赤屋小学校	(1) 校内研究体制の充実と言語能力の育成の実践 (2) 子どもと共に課題に取り組むプロジェクトチームの結成 (3) 赤屋学（ふるさと教育）の実践と、学校林や「赤屋ゆるキャラ」を生かした保護者・地域との連携による「赤屋大好き 赤屋っ子」の育成
第一中学校	【重点】 1. 学習意欲を高める授業改善・学力向上 2. 集団づくり ①学び合いのある学習集団づくり ①主体的に学ぶ授業づくり ① I C T の活用 ②不登校やいじめの未然防止と適切な初期対応 ②生徒が主体的に活動する場を設定（自己存在感、自己有用感） ②集団ルールの定着と生徒指導の充実（共感的な人間関係づくり） ②不登校やいじめの未然防止と適切な初期対応
第二中学校	『地域課題を探究テーマとした総合的な学習の時間』 ア 地域課題を探究テーマとし、その解決のために3年間の探究サイクルで、地域のひと・もの・ことを活用する。 イ 教科横断的カリキュラムの構築により、各教科でつけた力を総合的な学習の時間で活用する。
第三中学校	○生徒の自治的活動と、地域との協働による人権・同和教育の推進 ・人権集会、人権講演会、パネルディスカッション等 ○青少年赤十字の目標「気づき、考え、実行する」に基づいた学習の推進 ・地域と共に取り組む防災学習
広瀬中学校	○広瀬町への愛着と誇り、地域貢献の意欲を育てるふるさと教育 ○系統的な内容配置とキャリア・パスポートを活用したキャリア教育 ○情報活用能力の向上と主体的・対話的で深い学びにつなげる学校図書館活用教育、ICT活用教育
伯太中学校	(1) ふるさと教育を基盤としたキャリア教育 (2) 協働的な学びにつながる I C T 活用教育

4 学力向上の取組

○:授業時間における取組 ◇:授業時間以外における取組 □:その他の学力向上の取組

十神小学校	○TT指導や少人数学習による算数の授業。 ○児童の実態から出発する問題解決的な学習、主体的・対話的・深い学びを実現する指導 ○学校図書館を活用した授業実践、読書習慣の確立のための取組 ○見通し～学び合い～まとめ～ふりかえりを大切に十神小授業スタイルの周知 ○十神小スタンダード（通常版・特別支援版）の着実な実践による授業改善 ◇各学年に応じたノート指導と「自主学習の手引き」を活用した家庭学習 □授業についての基本的な共通理解事項の確認と十神っ子学習ルールへの指導
社日小学校	○「分かった」「できた」を感じる授業づくりに努める。 主体的に学び、ともに高め合うことができるよう、発問や学習形態、授業の展開を工夫する。 ◇模範例となるノートの掲示や、「家庭学習のてびき」について、活用の仕方を指導した上で全家庭に配付し、学習への意欲の向上と習慣の確立を図る。 □週3日（火・木・金）、モジュール的に行う10分間の基礎学習の時間（「しっかりタイム」）を確保する。毎月、漢字計算大会を実施し、既習内容を復習することで、基礎的学力を定着させる。
島田小学校	○「主体的」に課題を見つけ、その解決を目指すため、課題提示の仕方を工夫する授業展開を考える。 ○授業での対話(学びあい)を重視し、対話を通して思いや考えを共に深める場を授業に位置付ける。 ○見通しが持てる授業、ICTを活用した授業、焦点化して考える授業が推進できるよう、授業のユニバーサルデザイン化を図る。 ○学校図書館を活用した授業を工夫し、子どもたちの情報活用能力を高める。 ◇漢字会や計算会により基礎基本の確実な定着を図る。 ◇今月の詩の朗読や全校朝読書、必読書の取組を通して、読む力や語彙力を育てる。 ◇学年に応じた自主学習やノートの使い方などを指導し、進んで家庭学習に取り組めるようにする。 ◇家庭学習の手引きを配布し、家庭学習の充実を図る
宇賀荘小学校	○話し合い活動の充実 ○自分の考えを書く、まとめる活動の充実 ○探究的な学習活動を各教科で取り入れる ○授業の中で、ICTの積極的な活用 ◇朝学習の充実、月例テスト(国・算)、家庭学習の充実 □読み聞かせ、朝読書、今月の詩の暗唱、ショートスピーチタイム等
南小学校	○学びの大切さや楽しさを感じられる授業づくり ○学びが見えるノートづくり（めあて、自分の考え、集団の考えなど） ○「個別最適化」された学びの保障 ○タブレット端末やICT機器を活用した授業改善 ○図書館を活用した調べ学習や新聞づくり、読書記録の継続 ◇基礎学力の定着（チャレンジタイム、漢字・計算会、放課後学習等） ◇学習規律・学習準備の徹底（学習の約束、アイテムデー、話し方・聞き方） ◇家庭学習のしおりの配布(低中高別)と自主学習ノートなどを活用した家庭学習の習慣化 ◇個に応じた学習支援（放課後個別学習、ひまわり学習会）

能義小学校	○「話すこと」「聴くこと」を大切にする学習規律の確立 ○子どもから出発する探究型授業の展開 ○学習の見通しがもてる「めあて」の設定と、「振り返り」の観点 ○ユニバーサルデザインの視点で一人ひとりの特性に合わせた授業づくり ○担任、司書教諭、学校司書が連携した学校図書館の積極的な活用 ◇1日15分間のパワーアップタイム、毎月1回の全校一斉漢字計算会による基礎・基本の定着と個別学習・補充的学習の支援 ◇家庭学習の手引きを活用した、自主学習の習慣化 ◇「まなびのひろば」コーナーを活用し、学ぶ意欲喚起と家庭学習の質の向上
飯梨小学校	○複式学級のガイド学習 ○ICT機器の積極的な活用 ◇家庭学習の手引き、毎月の漢字・計算会 ◇なしっこタイム・・・掃除後10分間の基礎指導 □図書館活用教育 ・朝読書（月～木）と読み聞かせ（金） ・司書教諭、学校司書との連携による情報活用能力育成指導 □少人数を生かした個別支援の充実
荒島小学校	○めあて一まとめ一ふりかえりの授業スタイルの推進 ○探求型授業の確立 - 自力解決をめざした探求型授業により、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ○年間を通じた学校図書館活用教育の実施 ◇月1回の全校漢字・計算大会の継続 ◇自主学習と家庭学習の定着
赤江小学校	○研究授業を通じて授業改善を図る。（授業研究を計画的・組織的に実施） ◇思考ツール・ICT・教具・学習形態・ワークシートなど思考の深まりを助ける手立てを考える。（学びのユニバーサルデザインを大切に） ◇チャレンジタイム・家庭学習・自学、図書館活用教育等に、各学級で工夫して取り組む。
広瀬小学校	○学ぶ意欲と知的好奇心を育てるとともに、基礎基本の習得を図る。 ○算数科において、各学年の実態に応じて、少人数授業を取り入れるなどの指導方法を工夫し、個に応じたきめ細かな指導を行う。 ◇「家庭学習の手引き」などを活用し、家庭学習の習慣化を図る。 ◇校内研究とタイアップして、主体的・対話的・深い学びの実現を図る。
比田小学校	○学習のめあての提示と学習の振り返りの場の明確化 ○複式学級における学年別指導の充実…ガイド学習の理解と実践 ○ICT機器の効果的な活用 ○学校図書館を活用した学習…学校司書と連携した計画的取組 ◇検定等の実施…漢字検定（月2回）、計算検定（月1回） - ノートのとめ方の指導とノート検定（隔月） ◇昼の学習会「ぐんぐんタイム」（月2回） ◇家庭学習の習慣化のための「手引き」を活用した細やかな指導 □読書環境づくり…朝読書（毎週月・水曜日） - 地域ボランティアによる読み聞かせ（月1回） □家庭学習習慣の定着…家庭学習の手引きの活用 - 生活チャレンジ週間による生活リズムの点検と改善

山佐小学校	○話す機会や場を工夫し、自分の思いや考えを進んで伝える力をみがく。 ○ガイド学習の手法等を活用しながら、課題意識をもって自ら学ぶ、主体的学習態度を育成する。 ◇複式の良さを生かした学習を工夫し、基礎学力の定着を図る。 □生活リズムチャレンジウィークで規則正しい生活習慣を身につけさせる。
布部小学校	○めあて、ふり返りの場を大切にした授業づくり ○ICT機器を活用した授業づくり ○児童の学び合いの場を大切にした授業づくり ◇スキルアップタイム（毎日10分）の活用 ◇家庭学習の習慣化と自主学習ノートの奨励（「家庭学習の手引き、しおり」の活用） ◇毎月の漢字書き取り会、計算会の実施
安田小学校	○「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ○グループ活動や対話を取り入れた授業づくり ○ICT活用・学校図書館活用 ◇基礎学力の定着（漢字・計算チャレンジ、よむよむワーク） ◇個に応じた学力保障（にこサポ、通級、アフタースクールによる放課後個別学習支援の推進） ◇基本的生活習慣の確立による家庭学習や家読時間の確保
母里小学校	○ICT機器・学校図書館を活用した授業の充実 ・協働学習アプリケーション（Classroomなど）を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。 [教師が教える⇒子どもが学ぶ] ・環境整備、読書活動の充実、図書館を活用した授業の実施を通して、厚い本にも臆せず手を伸ばす子どもの育成をめざす。 ◇漢字計算大会・ミニチャレンジタイム等での基礎的・基本的な知識や技能の習得
井尻小学校	○めざす子どもの姿を明確にし、授業の「めあて」「ふりかえり」の継続と充実を図る。 ○複式学年別授業（ガイド学習）の中で個人思考、集団思考の双方を取入れ、「伝え合う」場の時間を確保しながら主体的・協働的学習を進める ○デジタル教材や大型提示装置などのICT機器の積極的な活用を図る。 ◇計算会や朝読書、めざましスキル、チャレンジタイムなど、学力定着のための取組を継続的に進める。 ◇家庭学習充実のための「家庭学習の手引き」や「くらしのガイドブック」を作成し、保護者に配布する。
赤屋小学校	○主体的に学ぶ意欲や態度を育成するために、少人数を生かした個別最適の学びを創造し、確かな学力を育成する。 ○校内研究の充実を図り授業改善に取り組む。言語能力の育成、ICT教育の推進、思考力・表現力・判断力等を育成する。 ○特別支援教育の充実を図るため、児童理解に基づく一人一人の困り感に応じた指導・支援を推進する。 ○家庭での生活習慣を整えるとともに、家庭学習の習慣化（学習習慣や読書習慣の確立）に向けての家庭学習課題を工夫する。 ○学校図書館活用能力・情報機器活用能力を育成し、「調べ、まとめて、発表する」情報収集・活用能力や発信力を伸ばす。

第一中学校	○学び合いのある学習集団づくり …効果的なペア学習、グループ学習 …K T K（傾聴・対話・協力）の共有 …協調学習、ジグソー法 ○めあての共有と振り返りの設定 …単元を貫く問い（課題設定）、評価と指導の一体化 …ループリック（評価基準）の提示、パフォーマンス評価 ○I C T機器を活用し、生徒の活動時間を確保する授業展開 ○学校図書館活用教育とI C T活用教育のバランス ◇家庭学習の習慣化（計画的な宿題、クロムブックの活用）
第二中学校	「よい学級、よい授業、よい家庭学習」を学力向上スローガンとし、確かな知識・技能を基盤とした主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。 ○総合的な学習の時間を軸とした教科横断型のカリキュラムをもとに、各教科で単元単位の指導と評価の計画を立て、単元評価シートを活用しながら、課題解決型の学習に取り組むことで、主体的・対話的で深い学びを推進する。 ○道徳科において、考え議論する道徳の実践に取り組むとともに、道徳的価値について多面的・多角的に考えたか、自分ごととして考えたかについて、ポートフォリオでの評価を実施する。 □学校図書館を充実させる。
第三中学校	○「めあて」と「まとめ」の整合性のある授業の実施 ○「言語活動」を重視した学習の展開の工夫 ○体験的な学習を通じた探究的な学びのある授業の工夫 ○I C Tや学校図書館を活用した学習の展開 ◇個に応じた放課後学習の実施
広瀬中学校	○生徒の視点に立った「めあて」の設定、学習の見通しの共有、「振り返り」の観点の提示等、プランに基づいた授業づくり ○学校図書館、I C T機器の効果的活用による生徒が主体的に課題設定・解決に取り組む授業づくり ○学習への意欲向上と課題解決に向けて探究する経験を積み上げていくための「発展的な学習」の設定と実施 ◇各学期2回（年間6回）のチャレンジテスト（英語・数学）の実施。 ◇T T指導、少人数指導、支援員による個に応じた指導等、きめ細かな指導及び支援 ◇家庭学習の手引き、自学ノート等を活用した家庭学習の定着・習慣化に向けた継続的な指導 ◇授業とリンクさせた家庭学習課題の提示 □「テストカルテ」を活用した適切な振り返り □ユニバーサルデザインを意識した学習環境づくり
伯太中学校	○I C Tを効果的に活用した授業の展開 ○ティームティーチングの実施（数・英） ◇チューリップテスト（基礎力テスト）・プレテストの計画的な実施 ◇『家庭学習のてびき』を活用した自学指導 □定期テスト前学習会の実施

安来市立安来幼稚園

(1) 教育目標

～ たくましく 心豊かに伸びる幼児の育成 ～

具体目標

- ・ 明るく伸び伸びと行動し思いを素直に表現する子ども
- ・ 体を動かす楽しさを感じる子ども
- ・ 約束を守って生活し楽しんで遊ぶ子ども
- ・ お互いの思いや考えを認め合い関わりあい協力し合う子ども
- ・ 友だちや先生の話聞き自分で考え行動できる子ども

(2) 園経営の重点

- ・ 一人一人の思いや考えを大切にし育ちを促す
- ・ 健康・安全に留意し身体活動を楽しませる
- ・ 基本的人権を尊重しいじめや差別を見逃さない
- ・ 友だちといる楽しさを感じさせる
- ・ 進んで関わったり意欲的に取り組めたりできるよう支える
- ・ 基本的生活習慣の自立をすすめる
- ・ 職員間の連携を密にし援助・指導・教育活動での協働体制をとる
- ・ 家庭地域との連絡連携をする
- ・ 幼稚園教育を充実させるための研修研究を行う

(3) 研究計画

研究主題

「互いの存在を認め合う心を育てる保育者のあり方」
～ 多角的な視点で子ども理解をする幼稚園をめざして～

(4) 特色ある教育

- ・ 様々な世代間交流を通じた“関わる力”の育成
- ・ 地域を知る活動や伝統文化にふれる“ふるさと教育”
- ・ 食育、社会体験、園外活動などの“体験活動”

(5) 学級編成

学 年		3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	計
組 名		ば ら	ゆ り	う め	
学 級 数		1		1	2
児 童 数	男	5	6	6	1 7
	女	3	3	5	1 1
	計	8	9	1 1	2 8

安来市立島田こども園

1 園の教育目標

心豊かにたくましく 未来を拓く子どもの育成

◎ めざす子ども像

～島田大好き 友だち大好き ひとみ輝く島田の子ども～

- 明るく元気な子ども（安定した心 健やかな体 基本的生活習慣）
- 自分から遊びを見つけ、夢中になって遊び込む子ども（感性 意欲 思考）
- 友だちとなかよくしようとする子ども（人とのかかわり 規範意識）

◎ 運営方針

人権尊重の精神に立ったこども園経営を基盤として、愛情と信頼、連帯と創意を発揮した教育を展開し「生きる力」の基礎となる心情・意欲・態度を培い、教育目標の実現を図る。

◎ めざすこども園像

- 人権が尊重されるこども園
- 健康で安全に過ごせるこども園
- 明るく活力のあるこども園
- 楽しい遊びがたくさん見つかるこども園
- 家庭、地域と共に子どもを育むこども園

◎ めざす教職員像

- 一人の人として、自分のあり方を見つめる教職員
- 子どもを信じ、子どもと真摯に向かい合う教職員
- 意欲的・創造的な教育実践を求める教職員
- 「連携」「協働」による教育を大切にする教職員

2 園経営の重点

（1）互いの人権を尊重し合うこども園づくりと豊かな心の育成

- 一人一人の子ども理解、信頼関係に基づく、子どもが安心して個性を発揮でき、友だちと一緒にのくらしを楽しめる学級経営
- 自己肯定感、自己有用感を高め、子どもの意欲が育つような教育の充実
- 絵本や音楽、自然とのふれあいなど豊かな感性を育む活動の充実

（2）自ら健康で安全な生活を作り出す力を大切にしたすこやかな体の育成

- 家庭と連携し発達の見通しをもった健康教育の推進と基本的生活習慣の確立
- 広い園庭を生かしたダイナミックに体を動かしたくなる遊びの展開
- 給食、栽培・収穫・調理、体を使った遊びなど、くらし全体を俯瞰した食育

（3）「めざす子ども像」が育つための、よりよい教育実践の探求

- 教員が連携し、共通理解のもとでの教育活動の実践
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識した発達の見通しをもった教育実践の工夫
- 学人同教の発表を見据えた園内研究、研究保育の充実と研究会・研修会への積極的な参加

(4) 保護者や地域に開かれたこども園経営の推進

- 子育ての楽しさの共有や保護者の思いの理解を大切にしたい、家庭との連携の充実
- 地域の人・もの・ことを生かす自然体験や社会体験を取り入れた、地域の人に親しみ、地域のよさを感じることでできる活動の充実
- 地域の子育て家庭の保護者に対する支援のあり方の工夫

3 研究計画

(1) 研究主題

人とのつながりの中で 自分らしさを発揮しながら共に育ち合う 子どもをめざして

(2) 研究の目標

子どもたちが人とのつながりの中で、自分らしさを発揮し合いながら共に育ち合うための援助と環境構成の在り方を、実践を通して探る。

(3) 研究の視点

- 一人一人が安心感や充実感を味わい、自分らしさを発揮できるような援助の工夫
- いろいろな友だちとのかかわりが、生まれ広がる環境構成の工夫
- 友だちと一緒にいる喜びを感じられるような環境構成及び援助の工夫
- 職員間の連携

4 特色ある教育

(1) 広い自然豊かな園庭を生かした、しなやかな心と体を育む保育

- 砂や土、泥、水、草花、虫など、身近な「もの」や友だち、先生などの「人」とのかかわりながら一人一人が自分で遊びを見つけ、遊び込む中で、遊びを工夫し、発展させていく「見つけた遊び」
- 体を動かす気持ちよさや達成感を感じることができるよう支えながら行う、マラソン、体操、リズム遊びなどを行う毎朝の「おはようタイム」

(2) 地域支援や地域の特性を生かしたふるさと教育

- 島田交流センターと連携して、年間を通して計画的に行う、地域の方に教えていただいたり一緒に遊んだりする地域支援活動（さつまいも栽培、陶芸教室等）
- 筍掘り、イチゴ狩りなど、地域に出かけて地域のよさを感じる活動

(3) 豊かな情操を育むための活動

- 幼児の主体性を大切にしたい「劇あそび」や「オペレッタ」の発表
- 子どもの生活や季節を大切にしたい童歌や童謡、体全体で楽しむ音楽あそびを取り入れた活動
- 家庭と連携し、継続して行う絵本の読み聞かせやお話語りを聞く活動

(4) 小学生や他園との交流活動

- 小学校の運動会、学習発表会などへの参加、1年生や4年生との交流活動など、小学生への憧れや親しみ、小学校への期待を持つようになる活動
- 他園との交流活動（合同での観劇会や園外活動等）

5 学級編成

学 年		3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
学級数		1		1	2
園児数	男	1	0	4	5
	女	2	4	2	8
	計	3	4	6	13

安来市立認定こども園荒島

1 教育・保育目標

～子どもたちの健やかな育ちをめざして～

- ・心身ともに健やかな子ども
- ・自分の思いを表現できる子ども
- ・意欲的に遊びを楽しむ子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・食を楽しみ、食に関心をもつ子ども

＜ 人権・同和教育目標 ＞

- ・自分の思いや考えを表現できる力を育むと共に、相手の思いや考えも受け入れ大切にできる力を育てる。
- ・基本的生活習慣や集団生活に必要な態度を身につける。
- ・お互いを大切にする、人権に対する芽生えを育てる。
- ・研修会、保育参観を通して保護者自身も人権意識が向上するよう啓発に努める。

2 (1) 経営の基盤

本園は保護者のニーズに合わせ 1～3 号認定の機能を併せ持ち、1 歳から就学前の子どもの教育・保育を一体的におこなう場であり地域における[子育て支援]をおこなう機能をもつ事を踏まえ、子ども一人ひとりの思いをしっかりと受け止めた養護のもと、適切な教育・保育を行ない子どもの主体性、協調性を育む。さらにその姿を健やかに、そして、のびやかにその成長を支えていくことに努める。

また、すべての子育て家庭を対象に子育てに関する相談の場、親子の集いの場を提供することに努める。

(2) 園経営の重点

- ① 保護者のニーズにより短時間及び標準時間の教育・保育を実施し、就学前の教育及び保育を一体的に行う場としての役割をはたす園づくりを進める。
- ② 健康で安全な生活をおくることができるように生活習慣や態度を一人一人の実態に合わせた、指導に努める。
- ③ 幼児の興味・関心に応じた環境の構成に努める。
- ④ 小学校との連携を行い幼児教育の理解およびスムーズな移行に努める。
- ⑤ 年齢に応じた子どもの発達を理解し、職員間の連携・協働を図り職員全体で教育保育を行う。
- ⑥ 地域の環境（人・物）を生かし教育・保育内容の創意・工夫に努める。
- ⑦ 保護者や地域に、園の教育・保育目標や活動内容を発信する。
- ⑧ 子育て家庭を対象に気軽に相談できる場を設け信頼関係を築き、また親子の集いの場を提供する。
- ⑨ 専門職としての資質向上に努める。

3 研究計画

研究主題

「子ども理解を深め主体的に生きる力を育む」
～異年齢保育を通した職員の協働性の本質を見つめて～

研究の目標

様々な立場の職員が養護と教育が一体となった保育を目指し支え合い、学び合い、気持ちをひとつに教育・保育に取り組み、子どもが主体的に生きる力を支える。

研究の視点

- エピソード記述を通して、個々の子ども理解を深める。
 - ・目にはみえない子どもの心の在りようを理解し捉える。
- 月2回行う“なかよし交流”を通して、心を通い合わせる教育・保育のあり様を見つめる。
 - ・子どもの個体発達と関係発達に視点を当てた職員間での連携を行う。

4 特色ある教育

① ふるさと教育の推進

- ・長寿会、童話のサークルの方々をはじめ地域の「人・物・自然」に触れ合いながら、ふるさとやそこで暮らす人々に親しみを持つ心を育む。
- ・親子銭太鼓作り、安来節踊り、荒島踊りなどの郷土の文化芸能を体験し地域の方々と共に楽しむ。

② 食を大切にする

- ・給食を通して「食べる」ことの大切さを知らせ、子ども達にとって現在、将来にわたって生きてくる活動の推進。
- ・子ども達と栽培した野菜の収穫や近隣の山、畑で採らせて頂いた自然物（梅の実、わらび・たけのこなど）を自分たちの手で調理し食する喜びを味わう活動の推進。

5 学級編成

年齢	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
男	7	9	6	5	6	33
女	6	4	4	7	7	28
児童数 合計	13	13	10	12	13	61

安来市立十神小学校

1 学校教育目標

「学びあい 磨きあい 鍛えあいながらたくましく実践する子どもの育成」

《めざす子ども像》

- ① もに話し合い、考え、学びを深める子（自ら学ぶ子）
- ② かわりの中で、温かい人間関係を築ける子（思いやりのある子）
- ③ んなど進んで体を動かし、健康・安全に生活する子（元気な子）

2 学校経営の重点

（1）学習指導の充実

- ① 一人一人の個性を把握し、ユニバーサルデザインの視点、個への適切な支援を大切にした授業改善を図り、みんながわかる授業づくりを進める。
- ② 指導方法、指導内容を工夫し、児童の実態から出発する問題解決的な学習、主体的・対話的・深い学びを追求する。
- ③ 学校図書館を活用した授業実践、読書習慣の確立のための取組を計画的・継続的に進める。
- ④ TT 指導や少人数学習などの指導体制を工夫し、個に応じた指導を推進する中で、児童自らが主体的に学習に取り組む姿勢を育て、学習習慣の定着を目指す。

（2）特別支援教育の充実

- ① 児童一人一人の個性を見とり、ニーズに応じたきめ細やかな支援につなげる。
- ② 関係機関と連携し、地域・家庭の理解を得ながら、児童一人一人の自己実現を図る。

（3）道徳教育の充実

- ① 発達段階をふまえ、「考え、議論する」授業づくりに努める。道徳ノートを活用などにより、一人一人を適切に評価し、授業づくりに生かす。
- ② 児童の実態把握をもとに、道徳の内容項目について重点化して取り組む。
- ③ 全教育活動を通して、道徳性が培われるように配慮する。

（4）人権・同和教育の充実

- ① 生命と人権を大切にした風土づくりと、児童の進路保障に向けた取組に努める。
- ② 人権課題、同和問題の解消に向けて、研修・啓発の推進に努める。

（5）生徒指導の充実

- ① 気持ちのよいあいさつができるように継続的に指導する。
- ② 規範意識の向上を目指す。
- ③ 温かい人間関係づくりを進め、絆づくり・居場所づくりに努める。

（6）学力向上の取組

- TT 指導や少人数学習による算数の授業。
- 見通し～学び合い～まとめ～ふりかえりを大切にした十神小授業スタイルの周知。
- 十神小スタンダード（通常版・特別支援版）の着実な実践による授業改善。
- ◇ 各学年に応じたノート指導と、「自主学習の手引き」を活用した家庭学習。
- 授業についての基本的な共通理解事項の確認と十神っ子学習ルールの指導。

(7) 健康・安全教育の推進

- ① 進んで自らの健康づくりに取り組み、日々安全な生活を送る児童の育成に努める。
- ② 家庭・十神見守り隊・関係機関との連携を図り、通学路及び地域での児童の安全確保に努める。

(8) 教職員の研修と資質の向上

- ① 主幹教諭配置を生かし、教職員組織の連携と活性化を図る。
- ② 若年教職員を育てる温かさとしげしさのある教職員集団づくりを進める。
- ③ 互いに高め合い、支え合う協同・協力体制づくりを進め、チーム力を高める。

3 研究計画

(1) 研究主題

「確かで豊かな言葉でつながり合う子どもの育成」(3年次)
～つけたたい力を明確にした説明的な文章の指導を通して～

(2) 研究の目標

確かで豊かな言葉でつながり合う子どもの育成をめざして、「読むこと」の説明的な文章の指導を通して、つけたたい言葉の力を明確にした授業の在り方を授業研究を通して明らかにする。

(3) 研究の視点・内容

- ・つけたたい言葉の力を明確にした単元の構想
- ・主体的に動き出したくなる授業の展開
- ・言語環境の充実

4 特色ある教育

(1) 地域の特色

校区は市役所、消防署、市立図書館、安来駅、多くの商業施設などがある市の中心地である。また、神社、寺院が多く、旧市街地の旧家や商家の立ち並ぶ地域も近くにあり、田園地帯が広がるとともに、十神山や中海、伯太川などもあり、歴史と文化、豊かな自然環境に恵まれている。

(2) ふるさと教育の特色

郷土の歴史、自然と文化・産業を生かし、自ら課題をもって取り組む「まち探検」および「郷土芸能体験活動」「ヤスキハガネ」を取り入れた生活科、総合的な学習の時間を進めることで地域に根ざしたふるさと教育を行っている。

(3) 豊富な人材の活用

教育熱心な保護者や毎週木曜日の全学級への読み聞かせボランティアなど地域の学校ボランティアが非常に多く、地域と連携した工夫した活動が展開できる。

5 学級編制

※児童数()は特別支援学級で外数

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計
学級数		2	2	2	2	2	2	2	14
児童数	男	35(1)	30(2)	29(1)	24	25	30(2)	6	179
	女	24(1)	23	30	32	31	26(1)	2	168
	計	59(2)	53(2)	59(1)	56	56	56(3)	8	347

安来市立社日小学校

1 学校教育目標

「豊かな心をもち 心身ともに健やかで、たくましく生きる子どもの育成」

2 学校経営の重点

(1) めざす学校像

「学校・家庭・地域でともにつくる 明るく 楽しい学校！」

(2) めざす子ども像

(し) しっかり考える子 <知>

(や) やさしい心をもった子 <徳>

(に) にこにこ元気な子 <体>

(ち) チャレンジする子 <やってみよう！>

(3) めざす教職員像

(し) しっかりと大切にしたいことを表現できる教職員

(や) やさしさとやる気、笑顔にみちた教職員

(に) 日常の積み上げを大切にする教職員

(ち) 違いを認め合い、互いに聴き合い、高め合う教職員

3 研究計画

(1) 研究主題

「確かで豊かな言葉でつながり合う子どもの育成」

～主体的に学び、ともに高め合う文学的な文章の学習を通して～

(2) 研究内容

①授業づくり

- ・主体的に学習に取り組むための工夫
- ・ともに高め合うための工夫
- ・国語科の授業を充実させるための工夫

②基盤づくり

- ・言葉を育てる
- ・「あたたかい」人間関係づくりを進める
- ・学力の基礎を支える取り組みを行う

4 特色ある教育

(1) 国語科の授業のあり方を追究する

今年度「島根県国語教育研究大会安来大会」の会場校として授業公開をする。外部講師に指導をしていただき、国語科を中心に実践を重ねるとともに、校内研修や研究授業等を計画的に行い、互いに学び合い高め合う教職員集団をめざす。

(2) 芝生化された校庭を活用する

芝生化された校庭は、さわやかであることやけがの心配が少ないことなどから、子どもたちが運動に親しみながら、心身を豊かに育んでいくことができる。それらを有効に活用して教科体育の充実と児童の体力向上を図る。

(3) 韓国守山初等学校との交流を深める

平成17年度に大韓民国慶尚南道守山初等学校との姉妹校縁組協定を結んで以来、相互児童交流を行っている。コロナ禍で従来のような相互訪問などの人的交流はできないが、歴史や文化等を学ぶ活動などを通して、それぞれの違いを認め合い友好な関係を築こうとする意欲・態度の育成に努める。また、スカイプ等を活用して学校間の交流を継続していく。

5 学級編制

学 年		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	計
学級数		1	2	1	1	1	1	2	9
児 童 数	男	15	17(1)	18	14(1)	11(1)	16	3	94
	女	9(1)	17	11	12	14(1)	16(1)	3	82
	計	24(1)	34(1)	29	26(1)	25(2)	32(1)	6	176

※児童数（ ）は特別支援学級で外数

安来市立島田小学校

1 学校の教育目標

- 「しなやかな感性をもち、真剣に学び、優しくたくましい島田っ子の育成」
 - ～ めざす児童像 「し・ま・た の子」～
 - ㊦ しんけんに学習する子(知)
 - ㊧ まわりのともだちにやさしくする子(徳)
 - ㊨ たくましくがんばる子(体)

2 学校経営の重点

(1) 学校経営の基本方針 ～人を大切にする学校～

- 1 子どもにとって、学ぶ楽しさのある場に(子ども一人一人を大切にする学校)
- 2 保護者にとって、子どもの成長が見える場に(保護者と共に歩む学校)
- 3 地域にとって、世代をこえたふれあいの場に(地域と共に歩む学校)
- 4 職員にとって、やりがいのある学校に(職員を大切にする学校)

(2) 重点施策 キーワード「自分の思い(考え)をもつ子 思いを伝えられる子」

- 1 確かな学力を育む授業実践と研究推進
 - ・主体的に学ぼうとする力を伸ばし、自分で課題を解決しようとする態度を育てる。
 - ・子どもたちが課題を見つけ、解決を目指す授業展開を工夫する。
- 2 豊かな心を育む教育の推進
 - ・支持的な学級集団づくりを学級経営の基盤に置く。
 - ・積極的な生徒指導を進め、子どもたちの自己肯定感を高める。
- 3 たくましいからだを育てる教育活動の推進
 - ・芝生の校庭を活用し、めあてをもちながら継続した体力づくりを進める。
 - ・弁当の日や食農教育を進め、子どもたちの食に対する関心を高める。
- 4 かかわりを大切にする教育・自立を支える生徒指導
 - ・接続カリキュラムを機能させ、保幼小中の連携を深める。
 - ・特別支援学級と通常学級の交流を推進し「共によりよく生きる」態度の育成を図る。
- 5 地域に開かれ、地域に根ざした学校づくり
 - ・地域支援者との調整を行い、ねらいを明確にしたふるさと学習を推進する。
 - ・安全指導・安全教育の推進と地域連携による子どもたちの安全を守る対策を確立する。
- 6 保護者と連携・協力して子どもたちを支える学校づくり
 - ・授業公開日、学校行事等を保護者の方との交流の場とする。
 - ・学校便り、学級便り、HP等により、子どもの様子を発信し受信する。
- 7 職員が協働し、自己研鑽に努める学校づくり
 - ・授業力の向上を図り、児童理解を深める。
 - ・校内研究や授業研究による自己研鑽を図る。

3 本年度の研究計画

(1) 研究主題 「確かで豊かな言葉でつながり合う子どもの育成」

～自分の思いや考えを言葉で表現し ともに学び合う授業づくりを通して～

(2) 研究内容

- ・「言葉をつないで」主体的に表現できるようにする
- ・「言葉をつないで」仲間と学び合い、自分の考えを深めたり広げたりする

4 特色ある教育

(1) 地域・学校の特色

- ・ 校区全世帯数840戸あまりの内、4割強が農業従事者であり、米作を中心として特産品の梨・たけのこの栽培や生産に取り組んでいる。
- ・ 通学距離も長く、国道9号線等の交通量も多く、保護者の要望でバス通学者が多くなっている。現在約8割の児童がバス通学となっている。

(2) 特色ある教育

- ・ 地域の学校教育に対する理解協力は厚く、島田交流センターを中心として、総合的な学習の時間や家庭科、クラブ活動等へ多数の地域講師の支援がある。

① 地域支援員さんとの連携による教育

(ア) ふるさと教育

- ・ 地域の人々と直接かかわることを通して、ふるさとの生活は自然環境と結びついて営まれていること、地域の人々の工夫や努力によって守られながら変化していることを理解し、ふるさとを大切に作る心を育てる。

(イ) 教科の学習

- ・ 生活科や社会科、家庭科等で、地域の教育資源(ひと・もの・こと)を活かす活動。

(ウ) その他

- ・ 総合的な学習や道徳、クラブ活動にゲストティーチャーや講師として参加してもらう。

② 英語・外国語活動

- ・ 安来市の実施計画をふまえて単元指導計画を工夫し、必然性のある活動で児童の意欲を高める。

③ 芝生の上での体力づくり

- ・ 年間を通じ、柔らかい芝生の上での体育や遊びを奨励し、多様な動きをすることで身体能力を高める。

5 学級編制 ()は特別支援学級児童外数

学 級		1年	2年	3年	4年	5年	6年	知的	自・情	肢体	計
学 級 数		1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
児 童 数	男	1 3 (1)	1 2 (1)	1 4	7 (1)	9	1 5	1	1	1	7 3
	女	1 7	1 3	1 3	1 2	1 1	1 3 (2)	1	0	1	8 1
	計	3 0	2 5	2 7	1 9	2 0	2 8	2	1	2	1 5 4

安来市立宇賀荘小学校

1 学校教育目標

『地域とともに 仲間とともに 未来を創る 心豊かな人づくり』

くめざす子どもの姿>

○伝え合う・・・進んで学び 伝え合う児童

○認め合う・・・思いやりがあり 認め合う児童

○挑戦する・・・健やかな体づくりとねばり強く挑戦する児童

くめざす学校の姿> ~歌「だいすき うかしょう」のような学校~

○明るいあいさつとぬくもりのある言葉が響きあう笑顔あふれる学校

○健康で、安全・安心に過ごせる学校

○保護者や地域と連携・協力して、教育効果を高めあう学校

くめざす教職員の姿>

○自ら学び続け、児童の可能性を引き出す教職員

○自らの人権感覚を磨き、豊かな人間性あふれる教職員

○「チーム宇賀荘」の一員として協働する教職員

2 学校経営の重点

(1) 基礎基本を身につけ、主体的に学習に励み、仲間と考えを伝え合い、表現する力を育てる教育を進める。

①基礎・基本の徹底と複式学級や少人数学級のよさを生かした教育実践

②「主体的・対話的で深い学び」の追究を通した「思考力・判断力・表現力等」の育成

③家庭との連携を密にした家庭学習の質の充実

④自ら学ぶ意欲と豊かな心を育てる学校図書館活用教育の充実

(2) 子どもたちの社会性を広げ、人間力を高める教育を進める。

①一人一人を大切にした学級経営と集団づくり，なかよしファミリー活動の充実による社会性の育成（リーダー性・協力性等）

②全教育活動を通しての道德教育と，「特別の教科 道德」の充実

③積極的な生徒指導による児童の自己肯定感の醸成

(3) 将来にわたって健やかに生きる心と体を育てる教育を進める。

①体力向上推進計画に基づき，健やかな体づくり

②基本的生活習慣や，望ましいメディアコントロール力の育成

③物事に向き合ったり，自分で決めたことに失敗を恐れず挑戦したりする場を設定し，しなやかな心の育成

(4) 家庭・地域との連携を深め，地域とともに歩み，ふるさとに根ざした教育を進め

る。

- ①学校・家庭・地域の三位一体で子どもを守り育てる「ふるさと教育」の推進
- ②信頼される学校づくり

3 研究計画

(1) 研究主題

「互いを認め合い、なかまと共によりよく生きようとする子どもの育成」
～学校の教育活動と関連付けた「特別の教科 道徳」の授業づくりを通して～

(2) 研究の目標

教科や学校行事と関連付けた「特別の教科 道徳」の授業づくりを通して、多面的・多角的に物事を考え判断する力や、よりよく生きようとする意欲や態度を育て伸ばすための効果的な手立てや工夫について明らかにする。

4 特色ある教育

(1) ふるさと学習の取り組み

- ・地域の伝統芸能を学ぶ場（銭太鼓、安来節踊りなど）の設定
- ・体験学習の場（野菜作り、巣箱作り、地域行事への参加など）の設定

(2) 人権教育や特別支援教育を基底に据え、自他を尊重し、お互いの良さを認め合う教育の展開

- ・全校縦割り班活動（なかよしファミリー活動）を年間通して実施し、全校の児童がお互いの良さを認め合い、尊重し合う教育活動の設定

(3) 小規模校の良さを活かした学習活動の展開

- ・一人一人の学びに応じた学習支援の充実
- ・聴き合い伝え合う場や表現力を高める学習の場の工夫

5 学級編制

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年	にじ いろ	あお ぞら	合計
学級数		1	1	1		1		1	1	6
児童 数	男	5	2(1)	3	5(1)	3	2	1	1	22
	女	3	5	3	4	3	3	0	0	21
	計	8	7(1)	6	9(1)	6	5	1	1	43

()は特別支援学級児童外数

安来市立南小学校

1 学校教育目標

豊かな心をもち、たくましく生きる子どもの育成

<めざす学校像>

「わくわく」「ドキドキ」「きらきら」があふれる学校づくり

<めざす子ども像> 合い言葉「**み**んな **な**かよし **み**な元気」

○進んで考える子

○なかよく生活する子

○心身ともにたくましい子

2 学校経営の重点

(1) 進んで考える子

答えのない問いに、答えを「創造」できる子を育む

①学びの大切さや楽しさを感じられる授業づくり

②「個別最適化」された学びの保障

③一人一台タブレットとICT機器を活用した授業改善

④学び続ける習慣作り

⑤図書館活用教育の推進

(2) なかよく生活する子

「多様性の尊重」を基盤とした人権感覚を育成し、互いのよさや違いを素直に認め合える子を育む

①気持ちのよいあいさつが響く学校

②目と心と耳で「聴く」態度の定着

③「温かく居場所のある学級・学校」づくり

④人権教育、道徳教育の推進

⑤異学年活動の場の充実

(3) 心身ともにたくましい子

健康教育の指導を充実し、たくましい体とすこやかな心をもつ子を育む

①望ましい生活習慣の確立

②多様な運動の場を設定した体力の向上

(4) 家庭との連携

①安心、安全な学校づくり

②家庭学習の充実

③PTA活動の充実

④積極的な情報発信

(5) 地域との連携

①ふるさと教育の充実

②積極的な情報発信と地域との交流

③外部評価の実施、学校評議員会の開催

3 研究計画

<研究主題>

「令和の日本型学校教育」をめざす実践研究 ～個人研究を通して～

<研究内容>

個人で研究課題を設定し、実践する。

○参考にするもの

☆令和4年度安来市立南小学校学校経営計画グランドデザイン

☆中教審第228号答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、
協働的な学びの実現～

4 特色ある教育

(1) ふるさと教育の取組

ア 安来節踊り・銭太鼓〔文化〕

・安来節保存会の方から全国的に有名な郷土芸能を習い、その技を学習発表会などで発表する。

イ 森林教室〔自然・産業〕・・・環境教育

・記念植樹、環境学習、木工工作、椎茸植菌などの体験を通して、森林に親しむと共に森林の働きや役割を知る。

ウ 大豆づくり〔自然・産業〕

・地元在住の大豆作り名人の方と一緒に、種まきから収穫、豆腐作りを通して、大豆の魅力を新聞などにして発信する。

エ 吉田川の活動〔自然・文化〕・・・環境教育

・吉田川の水質調査や生き物調べ、ほたる祭りへの参加などを通して、ふるさとの自然のすばらしさを知るとともに、環境保全の活動に取り組む。

オ 総合プロデュース南小

・生活科や総合的な学習の時間で育てた野菜を中心に、社会貢献活動や持続可能な取組につなげることができる仕組みを考え、実践する。

(2) 全校縦割り班活動の取組

縦割りグループで、休憩時間に遊んだり、集会活動に参加したりすることを通して、お互いの交流を深め、お互いを認め合い尊重しようとする態度を育てるとともに、子どもたちの主体性や連帯感を育てる。

5 学級編制（学級数：8 児童数：67名）

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	合 計
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
男	4	3 (2)	9	3	2	5	2	28
女	5	6	4 (1)	8	7	7 (1)	2	39
計	9	9	13	11	9	12	4	67

() は特別支援学級外数

安来市立能義小学校

1 学校教育目標

「伝え合い、響き合い、磨き合い、学びを深める子どもの育成」

〔めざす子ども像〕

のびのび表現する子…主体的な学び、表現する力 自分の力で解決
きづかうやさしい子…思いやり、豊かな心 友達の考えの尊重
つよい体をつくる子…強くしなやかな心と体、自律した生活
こきょうを愛する子…ふるさと能義への愛着と誇り

〔めざす学校像〕

○子どもを中心に、保護者・地域と信頼し合える学校
・安心、安全な学校
・明るく、活気あふれる学校
・美しく、心の落ち着く学校
・発信し、理解し、協力する学校

〔めざす教職員像〕

○教育に誇りを持ち、常に自らを磨き、児童のよさを伸ばす教職員
○組織の一員として、理解と信頼のもとに協働して校務を遂行する教職員
○保護者や地域の人々との連携・協力を大切にする教職員

2 学校経営の重点

(1) 「伝え合う」ことを意識して学習を深める。～学習指導の充実～

○のびのびした表現、開かれた学習集団、「伝え合い」の充実
○児童の実態から出発する探究的学習
○個に応じたきめこまかい指導の工夫
○ふるさと教育、学校図書館活用教育の充実

(2) 「響き合う」心を培い、集団の力を高める。～生徒指導、特別支援教育の充実～

○集団づくり・集団活動の工夫と充実
○集団の中で自己肯定感・有用感を育む指導と評価の工夫
○児童理解のための具体的な手立ての工夫。多様性への理解を促す指導の展開
○子どもの声を生かした「きづかう やさしい子」宣言

(3) 「磨き合う」意識と態度を培い、実践力をつける。～自立心の育成～

○自分を律し、日々の生活の中での力の発揮
○人権教育、道德教育の推進
○基本的生活習慣、家庭学習、読書の習慣の定着
○自主的活動を取り入れる場の工夫

(4) 健康教育の推進

○自分の体や成長に関心をもった体力作り
○体力、運動能力の向上をめざした活動の設定
○ねらいを明確にした安全指導

(5) 開かれた学校づくり

○地域の教育力の活用(ふるさと教育など)
○学校と地域、保護者の連携

3 研究計画

(1) 研究主題

「自ら考え、ともに学び合い、課題を追究する子どもの育成
～伝え合い、響き合い、磨き合い、学びを深める子どもの育成～」

(2) 研究内容

○社会科、生活科の授業づくりへの取組

- ・視点：社会的事象を自分との関わりでとらえ、問題意識をもつことを重視し、単元全体を見通した「知識と問いの構造図」を作成することにより、子ども自ら主体的に学び、課題を追究しようとすることができる。

○集団づくりへの取組

- ・学級集団づくり：学習規律（聴くこと・話すこと）の徹底、言語環境の整備 等
- ・全校集団づくり：のきっこ集会（音声言語による表現活動の発表）
のきっこファミリー活動（ファミリー遊び、ファミリー給食等）
- ・詩の音読・暗唱：学級、または、学校全体で声を合わせたり、自分らしいよみ方で表現したりする活動を行う。

○一人ひとりを支える環境づくりへの取組

- ・学力向上をめざしたパワーアップタイム、漢字計算会の実施と家庭学習の充実
- ・ユニバーサルデザインを意識した「みんながわかる」授業づくり
- ・学校図書館活用教育の推進
- ・健康教育の推進 「元気ちょきん」の取組

4 特色ある教育

(1) 「ふるさと教育」の推進

○地域の自然・人・社会等の資源を活用した体験活動や交流活動等を工夫し、主体的に学びに向かう意欲、豊かな心と感性を醸成する。

(2) 音声言語による表現活動の工夫

○学年ごとに「今月の詩」の音読・暗唱に取り組む。

○学期に1回、学級ごとに学習内容を発表し、感想を述べ合う「のきっこ集会」を行う。

(3) 「のきっこファミリー班活動」の展開

○縦割り班での活動を意図的、計画的に行い、高学年のリーダーシップを高めるとともに、子どもたち同士の温かい人間関係を育む。

5 学級編制

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	計
学級数	1	1	1	1	1	1	2	7
児 童 数	男	2 (1)	8	3 (1)	4	4 (1)	6	3 0
	女	8	6	1	5	5	2	2 7
	計	10 (1)	1 4	4 (1)	9	9 (1)	8	5 7

安来市立飯梨小学校

1 学校の教育目標

豊かな心をもち、進んで学び、たくましくやり抜く子どもの育成

- (1) 強い子…夢や目標に向かって、高め合う子
- (2) かしこい子…進んで自らの思いを伝え、学び合う子
- (3) すなおな子…思いやりの心をもち、自他を認め合う子

2 学校経営の重点

- (1) 強い心と体をもち、夢や目標に向かって、高め合う子の育成
 - 夢や目標の設定
 - 競争のある活動
 - 運動の促進
 - メディアストップ
- (2) 進んで自らの思いを伝え、学び合うかしこい子の育成
 - 主体的な学び、集団思考のある授業づくり
 - 基礎基本の充実
 - 個に応じた指導
 - 課題の追究
 - ICT機器のより効果的な活用
- (3) 思いやりの心をもち、自他を認め合うすなおな子の育成
 - 一人の自己肯定感、自己有用感を高める仕掛けづくり
 - 積極的生徒指導
 - 個に応じた適切な支援
 - 仲間との合意形成

3 研究計画

- (1) 研究主題
 - 自他ともに大切にできる子ども、主体的に行動し、
たくましく生きる子どもの育成
- (2) 内 容
 - ①子どもたち一人一人の学びの保障
 - ②人権が尊重される環境づくり
 - ③人権に関する知的理解と人権感覚の育成
- (3) 研究教科
 - 社会科、道徳科

4 特色ある教育

- (1) 人権・同和教育の推進
 - ・学力保障・進路保障の取組を推進する。
 - ・主体的に学び、一人一人が大切にされる複式の良さを生かした授業づくりを実践する。
 - ・自己肯定感、所属意識を高める仲間づくりの場を工夫する。

- ・保護者や地域と連携した人権学習の充実を図る。
- ・特別養護老人施設、障がい者授産施設の人々との交流活動やボランティア活動を推進する。
- ・人権が尊重される環境づくりを行う。
- ・職員研修の充実を図り、人権感覚を磨く。

(2) ふるさと教育の推進

- ・豊かな自然や文化を生かした体験活動を生かした課題追究学習を通して、ふるさとに誇りと愛着をもち、地域社会の一員としての所属感を育む。
 - * 飯梨の郷ふれあい太鼓（クラブ活動）
 - * 農業体験（社会科、総合的な学習）
 - * 野菜、花づくり（生活科）

(3) 連携教育の推進

- ・安来三中校区連携推進委員会の取組の共通理解を図る。
 - * 学力向上対策
 - * ふるまい3か条
 - * メディアとの関わり方
- ・交流学习の充実を図る。
 - * 安来三中校区健全育成大会

5 学級編制

学 年		1・2	3・4	5・6	計
学級数		1	1	1	6
児童数	男	3	6	7	16
	女	5	3	7	15
	計	8	9	14	31

安来市立荒島小学校

1 学校教育目標

心も体もたくましく、

ありのままの自分を表現できる子どもの育成

- ・ 学ぶ喜びを知り、あたまを鍛えていける子（知）
- ・ 協働する喜びを知り、こころを磨いていける子（徳）
- ・ 汗を流す喜びを知り、からだづくりができる子（体）

2 学校経営の重点

① バランスのとれた学力育成と個に応じた指導の充実

- ・ 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」という3つの学力の柱のバランスのとれた育成
- ・ 家庭学習の習慣化
- ・ 個別指導の工夫
- ・ 個に応じた特別支援教育の推進と理解教育の充実

② 児童を「学びの主役」とする授業研究の推進

- ・ しまねの学力育成プロジェクトを踏まえた研究推進体制の確立と充実
- ・ 初任研：組織で育てるイメージ
- ・ 探求型授業の確立

③ 積極的な生徒指導及び児童の自尊感情を高める取組の推進

- ・ あたりまえのことがあたりまえにできる
「基本的な生活習慣の定着」を目指す日々の日常指導の徹底
- ・ 積極的な生徒指導の推進
- ・ 問題行動への初期対応と情報の共有化による組織的な指導

④ 全ての教育活動の基底に据えた人権教育の推進

- ・ 一人一人の学びの保障
- ・ 教職員の人権教育観の確立と研修の充実

⑤ 読書活動の推進と学校図書館活用教育の推進

- ・ 様々な読書活動の推進と本に親しむ環境作り
- ・ 学校図書館活用教育の推進による学力育成

⑥ 元気でやり抜くための体力づくりの推進

- ・ 基礎体力の増進
- ・ 健康教育の推進

3 研究計画

（１）研究主題

主体的に取り組み、自分の思いを進んで表現しようとする子どもの育成

～算数科を通して～

(2) 研究の内容

① 課題設定の工夫

○児童の実態や単元のねらいに応じた課題設定の工夫（解決への意欲喚起，意図が伝わる表現）はどうあるべきか。

○課題提示の方法（タイミング・示し方）はどうあるべきか。

② 課題解決のための支援の工夫

○児童は学習の流れが分かり，見通しをもっているか。

○児童は解決の手がかりとなる事柄が分かっているか。

○児童が主体的に取り組める方法（学習過程・支援グッズの使い方）が準備できているか。

○ペアやグループ，全体での話し合いの視点は明確になっているか。

③ 縦横の一貫性をもった実践

○全体計画，年間指導計画の作成と共通理解を図る。

○学習環境の整備（支援グッズ，教室環境，掲示等）

○授業とつながりのある家庭学習の工夫

4 特色ある教育

(1) 地域支援団体との継続的な連携

郷土の偉人や地域の特産物、歴史的文化遺産などをテーマにした学習を「社会」、「総合的な学習の時間」等で地域関係団体の継続的な支援の下、実施する。

(2) 異学年交流活動の重視

異学年によるペアやグループでの活動を多く取り入れ、関わ合うことの楽しさを体験的に理解させ、望ましい人間関係づくり・集団づくりをめざす。

5 学級編成

学年		1	2	3	4	5	6	特支	計
学級数		1	1	1	1	1	1	2	8
児童数	男	19	9	12(3)	17(2)	12	12	5	86
	女	12	11	17(1)	14	11	17	1	83
	計	31	20	29(4)	31(2)	23	29	6	169

安来市立広瀬小学校

(1) 学校教育目標

「 学びあい 磨きあい 鍛えあいながらたくましく生きる子どもの育成 」

(2) 学校経営の重点

《めざす子ども像と重点内容》

○よく考え、勉強にはげむ子ども

(自主性・創造性)

- ・基礎基本の習得に努める。
- ・少人数指導など指導方法を工夫し、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。
- ・学習規律や学習習慣、家庭学習習慣の定着を図る。
- ・自分で考え解決する力を育てる。(主体的・対話的・深い学びの追求)
- ・言語活動を取り入れ、表現力を育てる。
- ・学校図書館やICTを活用した教育活動を推進する。
- ・学ぶ意欲と知的好奇心を育てる。

○明るく、豊かな心をもつ子ども

(人間性豊かな情操)

- ・道徳科を要として道徳教育の充実を図る。(考え、議論する道徳)
- ・授業や行事等で感動や充実感のある体験をさせる。
- ・一人一人を大切にした学級・学校づくりに努めるとともに、自己肯定感や自尊感情を育てる。
- ・一人一人の子どもの不安や悩みを受け止める教育相談・指導体制の充実を図る。
- ・相手を意識した行動ができ、感謝する心を育てる。
- ・日常生活や授業を通して人権感覚を育み、差別を許さない人権意識を育てる。
- ・特別支援教育、理解教育の推進と縦割り班活動を活用し、仲間意識の育成に努める。

○たくましく、ねばり強い子ども

(健康と強い意志)

- ・自己の健康に関心をもち、自己管理能力の育成を図る。
- ・安全な暮らしに努め、危険回避能力の育成を図る。(迅速な修繕と環境整備)
- ・年間を通して、計画的に体力・運動能力の向上を図る。
- ・運動に親しみ、自ら体力・運動能力の向上に努める。
- ・規則正しい生活リズム、メディアとの上手なつきあい方の習慣化を図る。
- ・食に関する指導等による食育の充実を図る。
- ・苦手なこと、挑戦したいことに継続的に取り組ませ、強い心と体を育成する。

《めざす教職員像と重点内容》

◎豊かな人間性と愛情にあふれた教職員

○心身ともに健康で信頼される教職員

- ・凡事徹底を基盤に据える。
- ・教職員の健康は学校教育の原動力であることから、常に健康に留意する。
- ・子どもの命を守り、子どもや保護者に誠意をもってあたる。
- ・報連相を早く的確に、いつでもチームで対応する。
- ・率先垂範、明るい挨拶、教職員のコミュニケーションを重視する。

○自ら学び、わかる授業づくりに努める教職員

- ・共に学び、育つことを喜びとする（人間形成の場としての職場）。
- ・職員室を情報交換の場にし、話す人の顔を見て聴き、対話する。
- ・子どもが分かる授業を目指し、日々研鑽に努め、授業力を高める。
（子どもの主体性の尊重、学習内容の追求・向上、見通しを持たせる計画性）

○子どもを認め励ます教職員

- ・児童理解に心がけ、児童との信頼関係を構築する。
- ・アンテナ高く子どもの状態を把握し、声にならない声や訴えを聞き取る。
- ・子どもの声に耳を傾け、温かく、時には厳しく指導する。
- ・常に向上心をもち、子どもの姿から常に自分を振り返る。

（３）研究計画

①研究主題 「自ら考え ともに学び 高め合う 子どもの育成」
～対話を通して課題にせまる指導のあり方～ （１年次）

②研究内容

- ・課題解決に向け、対話を通して深い学びに迫る授業づくり
（ＩＣＴ活用、対話の広小スタイルの構築）
- ・特別支援教育に視点を置いた授業づくり
（ユニバーサルデザイン、合理的配慮、個別支援）

（４）特色ある教育

○特別支援教育の推進

- ・子どもたち一人一人の個々のニーズを理解するとともに、縦割り班活動等を活用した仲間意識の育成に努める。
- ・理解教育の推進とユニバーサルデザインによる授業作りを行う。
- ・安心してすごせる仲間づくり ・学校・家庭・地域の連携づくり

○ふるさと教育の推進

教科や総合的な学習の時間、クラブ活動等の学習において、地域の文化・自然に積極的にふれることを通して、自分の郷土に関心をもち、地域を支える人々の働きや活動を知り、それらを受け継ぐとともに、新しい生活や文化を創造していこうとする資質や態度を育てる。

○学校図書館の充実

- ・読書習慣の定着を図り、幅広い知識を身につけさせ、豊かな心情を育てる。
- ・学び方指導の充実を図り、望ましい図書館の利用態度や技術を高める。
- ・学校図書館活用教育の充実を図り、情報活用能力を高める。

（５）学級編制

学 年		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	計
学級数		2	2	1	2	1	2	2	1 2
児童数	男	18(3)	13	12(2)	22(1)	20(1)	23	7	1 1 5
	女	14	21	12(1)	14	15	21	1	9 8
	計	32(3)	34	24(3)	36(1)	35(1)	44	8	2 1 3

安来市立比田小学校

1 学校教育目標

「比田を愛し、自ら学び、心豊かでたくましく生きる子どもを育てる」

【めざす子ども像】

- ・ 自ら学び、考え表現しようとする子 「かしこく」
- ・ 認め合い、協力して行動しようとする子 「なかよく」
- ・ 進んで健康・安全な生活をしようとする子 「たくましく」

【めざす学校像】

- ・ 地域と連携・協働する学校
- ・ 全教職員で組織的に動く学校
- ・ well-being(よりよい働き方)をめざす学校

【めざす教職員像】

- ・ 確かな人権感覚をもつ教職員
- ・ 子どもの可能性をのばす教職員
- ・ 優しさと厳しさをもつ教職員

《子どもと教職員の合言葉》

『チャレンジ』

やる気・勇気をもって 粘り強く チャレンジしよう

2 学校経営の重点

(1) 学習指導の充実

- 授業力の向上：複式教育の研究と実践 基礎学力の定着 思考力、表現力の育成
I C T機器の活用 言語能力の育成
- 家庭学習の充実：自主学習の習慣化 「家庭学習の手引き」の活用
- ふるさと教育の充実：地域に学ぶ教育の推進 え～ひだk i d sの活動の充実
- キャリア教育の充実：学級活動2内容（3）の実践 キャリア・パスポートの活用
- 学校図書館の活用と読書活動の推進：図書館活用教育の推進 読書活動の充実

(2) 特別支援教育の充実

- 個に応じた指導と支援
- 自己理解と個性の伸長
- 個々の特性を認め合う理解教育の推進
- 通級指導教室との連携
- 校内支援委員会による支援の共通理解と実践

(3) 人権教育の推進

- 自己肯定感、自己有用感の高揚
- 互いを大切にした集団づくりの推進

(4) 道徳教育の充実

- 道徳教育推進教員を中心とした指導と評価についての研修の実施
- 「考え、議論する」授業の充実

(5) 生徒指導の充実

- 児童理解から始まる生徒指導
- 教育相談の充実
- いつでもどこでもできるあいさつの定着

(6) 基本的な生活習慣の確立と心身の健康の保持、安全教育の推進

- 「早寝」「早起」「朝ごはん」の定着
- 電子メディアとの適切な関わり方の指導
- 朝マラソンやなわとびをとおしての体力づくりの充実
- 体育科の授業での運動量の確保と休憩時間の外や体育館での遊びの励行
- チャレンジ精神・我慢強さの育成：あきらめない気持ちと努力することを大切にするための支援
- 防災教育の充実：小さな拠点づくり事業との連携

(7) 保護者や地域との連携・協働を大切にした学校づくりの推進

- 学校からの積極的な情報発信
- 保護者や地域の願いや声を大切にした連携

3 研究計画

《研究主題》 自分の思いや考えをもち他者の思いを受けとめ、自分の考えを深めようとする子どもの育成 ～特別の教科 道徳の実践を通して～

《研究の目標》

学習活動を通して、子どもが自分の思いや考えをもち、ともに考えを深め合うことができる道徳の時間の在り方を探る。

《研究の内容》

- 子どもの実態を踏まえた内容項目の重点化と年間指導計画の見直し
- 子どもが問題意識をもって考えることができる教材・資料の選定と授業の展開の工夫
- 評価の場面や方法の工夫

4 特色ある教育

ふるさと教育の充実

比田の「ひと・もの・こと」を生かした探究的な学習を推進し、ふるさとへの愛着や誇りをもち、地域に貢献しようとする子どもを育成する。

5 学級編制

学 年		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	計
学級数		1		1		1		1	4
児 童 数	男	1 (1)	2	1 (1)	1	4	2	2	1 3
	女	1	3	1	3	1	3	0	1 2
	計	2	5	2	4	5	5	2	2 5

安来市立山佐小学校

1 学校教育目標

元気あふれる子どもの育成

【めざす学校像】

楽しい学校・元気な学校

【めざす児童像】

や やわらかい頭・・・進んで学ぶ子

ま まけない体・・・元気でやり抜く子

さ さわやかな心・・・優しく助け合う子

【めざす教職員像】

教育愛を基盤にして児童の生きる力を引き出す教職員

2 学校経営の重点

◇ 進んで学ぶ子 (や やわらかい頭・・・進んで学ぶ子) 伝える力

① 教育環境（授業）の充実

- ・複式の良さを生かした学習を工夫する。
- ・話す機会や場を工夫し、自分の思いや考えを進んで伝える力をみがく。

② 基礎基本の確実な定着

- ・基礎学力の定着を図る。
- ・ガイド学習の手法等を活用しながら、課題意識をもって自ら学ぶ、主体的学習態度の育成。

③ 学校図書館活用教育の充実

- ・学校図書館の学習支援センター機能の充実を図る。

◇ 元気でやり抜く子 (ま まけない体・・・元気でやり抜く子) あきらめず挑戦する力

① 基礎体力の増進

- ・体育の授業や体力づくりを工夫し、基礎体力の増進を図る。

② 健康教育の推進

- ・生活リズムの定着、自己管理能力の育成に努める（家庭との連携）。

③ 安全教育・防災教育の推進

- ・安全管理を徹底し、安全教育（災害安全・生活安全・交通安全）を実践する。

◇ 優しく助け合う子 (さ さわやかな心・・・優しく助け合う子) 助け合う力

① 子ども理解の視点に立った生徒指導の推進

- ・日常の児童観察・教育相談・「子どもを語る会」を通して実態をつかみ、児童を支える。
- ・児童が自ら考え行動してみることで、やり遂げ、達成感を味わうことのできる活動を推進する。

② 特別支援教育の視点を生かした人間関係作りの推進

- ・お互いの良さを認め合い、伝えあえる集団づくり。
- ・1人1人の多様なニーズに柔軟に対応できる支援体制を整える。

③ 読書の推進（読書センター機能の充実）

- ・朝読書や読み聞かせ等を工夫し、本に親しむ習慣をつくる。
- ◆ 自分の将来をたくましく切り拓き、様々な人権課題の解決のために主体的に行動できる子
- ◆ 保護者・地域との連携
- ◆ 教育愛を基盤にして児童の生きる力を引き出す教職員

3 研究計画 【3カ年計画の1年次】

(1) 研究主題 「主体的に考え、心豊かに学び合う子どもの育成」

～自己を見つめ、他者とつながって考えを深め合う道徳の授業づくり～

(2) 研究内容

- 豊かな言葉の力をつける工夫
- 多様な考えにふれる、場の設定や対話の視点の工夫
- 協働的な（考え議論する）場のもち方の工夫

4 特色ある教育（ふるさと教育の取組）

(1) ふるさと教育の目標

山佐小学校区（上山佐地区・奥田原地区）の「ひと、もの、こと」にふれる活動を通して、ふるさとのよさを見つけ、ふるさとを大切にしようとする態度を育てる。

(2) めざす子ども像

- 社会や自然に積極的に関わろうとする子ども
- 課題を見つけ、より良く解決していこうとする子ども
- 自分に自信をもち、自分を豊かに表現しようとする子ども

5 学級編制（学級数、児童数）

学年		1	2	3	4	5	6	特支	計
学級数		1		0	1	1		1	4
児童数	男	1	0	0	0	0	0	0	1
	女	0	1	0	4 (1)	1	1	1	8
	計	1	1	0	4 (1)	1	1	1	9

安来市立布部小学校

1 学校教育目標

豊かな心をもち,すこやかで,たくましく生きる子どもの育成

(1) めざす学校像

笑顔があふれ,笑い声がこだまする学校

(2) めざす子ども像と具体的姿

- ・ 考え行動する子ども (知)
- ・ 励まし助け合う子ども (徳)
- ・ 強く,やりぬく子ども (体)

(3) めざす教師像

- ・ 子どもに愛情を注ぐ教職員
- ・ 学び続ける教職員
- ・ 支えあい,認め合い,協働する教職員
- ・ 地域とともに歩む教職員

2 学校経営の重点

- (1) 全ての教育活動の基底に人権・同和教育を据え,一人一人を大切にし,進路保障を推進する学校づくりを行う。
- (2) 児童一人一人が持てる力を十分に発揮できるように,児童の健康及び安心安全な教育環境を整え,危機管理体制の維持・向上を図る。
- (3) 家庭や地域との連携を密にし,地域ぐるみの教育を推進する。
- (4) 児童理解に努め,信頼関係を基底に据えた学習指導,生徒指導を行う。
- (5) 児童の学習意欲を高め,一人一人の確かな学力の定着と学び方の習得をめざした授業改善に努める。
- (6) 教職員一人一人が主体的に学校経営に参画し,協働と調和を大切にした組織の確立と研修の充実により,創意ある教育活動の展開に努める。

3 研究計画

(1) 研究主題

自分の考えをもち,主体的に学び,表現する子どもの育成

(2) 研究の目的

一人一人の児童が主体的に学び、思いを素直に出しながら、自分も他の人も大切にし、様々な場面で人権を尊重した態度や行動の育成を図る。自分の意見を持ち、友達の意見を聞いて考えを深めていけるような指導のあり方について考えていく。

4 特色ある教育（ふるさと教育の取組）

(1) 地域の特色

学校は、飯梨川支流の布部川・西谷川に沿った山間地にある。布部地区に生息するハッチョウトンボ、西谷地区に生息するオオサンショウウオに象徴されるように四囲は清涼な自然環境にある。布部地区は、昔の宿場町の面影を残し、尼子・毛利の古戦場跡、野だたら跡などもあり、椿の里とも呼ばれている。

また、著名な文化人・偉人（西田明史・加納辰夫・井上赳・山中鹿之助・橋本源一等）を輩出している地でもある。

(2) 学校の特色

平成16年度に、旧西谷小学校と旧布部小学校とが統合し「布部小学校」としてスタートした。現在はそれぞれの学校で行われてきた活動のよさを生かした教育活動を展開している。全校縦割り班での活動、地域の文化・伝統を教材化、地域へ出かける・地域の方を講師として招くなどの人との交流等である。これらの活動を通して、社会性や郷土愛を育てている。代表的な活動としては、本年度で35年目を迎える全校活動で行う「椿油作り」がある。

(3) ふるさと教育について

ふるさとの自然や文化、伝統、芸能、先人の苦労や偉業から学び、ふるさとへの誇りと愛着をもつとともに、ふるさとの人々との交流を通して、地域社会の一員としての所属感・連帯感を育む。

5 学級編制（学級数、児童数）

学 年		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	計
学 級 数			1	1		1		1	4
児 童 数	男		2	2	1 (1)	1 (1)	2	2	1 0
	女		2	1	0	0	1	0	4
	計		4	3	1 (1)	1 (1)	3	2	1 4

安来市立安田小学校

【1】学校教育目標

やさしく すこやかに だれもがまなびあう安田小学校
やさしく助け合う子…相手の気持ちを想像し思いやり、
仲間を大切にする（やさしく）
明るく元気な子…よく遊び、強い心と健康な体をもつ
たくましい子（すこやか）
よく学び考える子…進んで学び、正しく判断する子※
すすんでとりくむ子…自分の意思で主体的に行動する子※
（※まなびあう）

【2】学校経営の重点

1 学ぶ意欲と確かな学力を培う教育（知）

- （1）学びの大切さや楽しさを感じる授業づくりの推進（めあて、ふりかえり、学び合い、課題追求、ICTの活用）
- （2）学習の基礎・基本の定着（スキルの習得、知識の定着）
- （3）学校図書館活用教育の充実（読書活動の推進、情報スキルの習得、学校司書の活用）
- （4）学習習慣の定着（家庭学習・自主学習）

2 豊かな心と人権尊重の精神の育成（徳）

- （1）児童の心に寄り添う生徒指導の推進（自尊感情の育成、いじめ防止、教育相談、SCの活用）
- （2）他者を知り、違いを受け入れ、自他を大切にする人権・同和教育の推進
- （3）道徳科の時間を中心とした道徳的実践力の育成（考える道徳）
- （4）支持的風土に満ちた集団づくりの推進（学級集団、委員会・縦割り班）

3 健やかな体の育成（体）

- （1）遊びの勧め（校庭や体育館で、楽しく遊び運動する環境の整備）
- （2）保健指導の充実（健康診断の分析に基づく指導）
- （3）体育科の指導（継続した体育的活動の充実、運動量の確保、技能の習得）
- （4）基本的な生活習慣の確立（メディアとの接触・食事・十分な休養と睡眠）

4 個に応じた特別支援教育の推進

- （1）一人一人の児童の実態把握に基づく支援計画・指導計画の作成と活用
- （2）特別支援教育 Co を核とした支援体制の充実、関係機関との連携の推進
- （3）特別な支援の必要な児童を中心に置いた学級経営と、にこサポ・支援員の活用

(4) 特別支援学級における指導の充実と、学校全体・保護者・地域への理解の推進

5 ふるさと教育の推進

(1) 地域の自然・歴史・文化・産業などを取り入れた学習の推進

(2) 地域の人から生き方を学ぶ学習の推進

(3) キャリア教育の視点を取り入れた活動の充実

6 開かれた学校づくりの推進

(1) 情報の共有化と発信の推進

(2) 地域の状況・ニーズ等、情報収集の推進

(3) 園・小・中学校の連携（Eネットはくた）の推進

【3】研究計画

1 研究主題

教科のねらいに迫る ICT の特性を生かした授業づくり

「もっと知りたい、伝えたい」～主体性を高める

学習過程の工夫～

2 研究の概要

○ ICT 機器等の活用意図の明確化とコンテンツの精選

○ 活用場面、方法の工夫

○ 評価の方法、記録の工夫

【4】特色ある教育

1 全教育活動を通じて、人とよりよく関わる力を培い、お互いに認め合う温かい集団づくりを推進する。

2 地域のよさや課題を取り入れた教育を推進することにより、自ら課題に向かって追求する力を育てる。

3 学校・PTA・地域一体となった安全教育を推進する。

【5】学級編制

学年		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	計
学級数		1	1	1	1	1	1	2	8
児童数	男子	7(1)	8(1)	7	2	10(2)	9	4	47
	女子	2	7	6	4	6	7	0	32
	計	9(1)	15(1)	13	6	16(2)	16	4	79

() は特別支援学級児童外数

安来市立母里小学校

1 学校教育目標

「豊かな心をもち、健康で力強く挑戦していく子ども」の育成

《めざす子ども像》

- 本 気（徳）…真心を尽くし、人を大切にする子
- やる気（知）…目標に向かって、自ら学び、考え表現する子
- 元 気（体）…進んで体をきたえ、守り、がんばりぬく子

2 学校経営の重点

(1) 豊かな心の育成

- ① みんなが楽しく学べる学校環境づくり【居場所づくりと絆づくり】
 - ・自尊感情・自己有用感を高める授業づくりや学校生活
- ② 道徳教育、人権教育の推進【豊かな人間性を基盤とした教育活動の推進】
 - ・生命尊重・人権尊重の態度の育成、自尊感情（自信・達成感・自己肯定感）の醸成
- ③ 「ふるまい向上」の推進【よりよい習慣を学校風土へ】
 - ・心のこもったマナー（礼儀）・モラル（良識・社会性）・ルール（規範意識）の醸成

(2) 確かな学力の育成

- ① 「学力向上」の推進【基礎基本と思考力両面の学力向上】
 - ・基礎・基本の定着を図るためのシステムの確立（タブレットの利用）
 - ・学習規律の徹底と学び合い高め合う学習集団づくり…ペア学習・グループ学習の推進
- ② 「コミュニケーション能力」の育成【主体的・対話的で深い学び】
 - ・課題発見、自己（集団）思考・自己（集団）決定、表現する課題解決学習の推進
 - ・対話・話し合いによって考えを深める言語活動の充実
- ③ 「キャリア教育」の推進【キャリアパスポートの活用】
 - ・将来の社会的自立の基礎づくり
- ④ 「ICT 活用教育・学校図書館教育」の推進
 - ・ICT 機器を活用した教育による、主体的に課題解決に向かう意欲の育成
 - ・学校図書館活用教育による読解力・情報活用能力及び読書に親しむ習慣の育成

(3) 健やかな体の育成

- ① 「体づくり」の推進【学習に向かうことができる体づくり】
 - ・困り感の洗い出しなど【実態把握】
 - ・適切な運動経験と運動量を確保した体育の授業の充実【授業を通しての体づくり】
 - ・体を動かす集団遊びと全校での体づくりの推進【生活の中での体づくり】
 - ・体力・運動能力調査の分析等による年間を見通した全校体制での体力・運動能力の向上
- ② 望ましい生活習慣の確立・健康づくり【家庭との共通理解と連携】
 - ・規則正しい生活リズム（早寝・早起き・朝ごはん）の確立
 - ・ネット社会におけるメディアとの望ましい付き合い方を決定する力の育成
- ③ 自他の生命・身体を自ら守る力の育成
 - ・交通安全・防犯・不審者対応・ネット等今日的課題の安全教育の推進
 - ・性教育・食育・感染症等、現代的課題についての指導の推進

(4) 教育に携わる自覚をもった教職員

- ① 自ら資質向上に努める教職員

- ・全校共通の一貫した取組の上に立つ教員個々の自発的な創意工夫による指導の充実
- ・全教員の組織的な研究による授業の充実と指導力の向上

②積極的な学校運営参画に努める教職員

- ・教育公務員としての服務規律・使命感と人権意識・向上心の高揚
- ・全教職員の共通理解とチームとしての協働体制の確立

(5) 地域の一員としてともに歩む学校づくり

①ふるさと教育の推進

- ・地域の教育資源（ひと・もの・こと）から学ぶ体験活動（本物体験・感動体験）の充実
- ・ふるさとへの愛着と誇り、地域に貢献できる力の育成、学校と地域の互惠関係の構築

②社会に開かれた学校づくり

- ・各種便り・HP・授業公開・行事公開等による積極的な情報発信と学校のPR
- ・PTA・外部人材の学校教育への参画の促進（学習・本物体験活動・学校行事等）

③信頼される学校づくり

- ・積極的な情報連携と組織的な早期発見・早期対応による危機管理
- ・家庭・地域と協働した安全・安心な学校づくり

3 研究計画

(1) 研究主題

「自ら考え、伝え合い、高め合う子どもの育成」
～これからの時代を生きる力を育むICT活用教育～

(2) 研究内容

○学び合い高め合うことのできる授業づくり【教師の活用】

- ①課題設定のための活用 ②学習を共有し、対話的な学びにするための活用
- ③理解を高めるための視覚支援活用 ④学びを深める、まとめるための活用

○情報活用能力を育てるためのICT活用教育の基盤づくり【児童の活用】

- ①情報収集のための活用（NHK for school など）
- ②記録・整理のための活用（ジャムボード コラボノートEX など）
- ③まとめ表現するための活用（ドキュメント スプレッドシートなど）
- ④振り返るための活用（フォームなど）
- ⑤対話的な学びにするための活用（クラスルームなど）

○学びを支える環境づくり

- ①ICT教育環境の整備・充実 ②教職員研修

4 特色ある教育

○学校・家庭・地域が互いに協働・貢献し合うことで互惠関係を構築し、「チーム母里」として地域全体で母里の子どもたちを育てる風土を創る。

《ふるさと教育の取組例》

5 学級編制

学 年		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支 (知)	特支 (自・情)	計
学級数		1	1	1	1	1	1	1	1	8
児 童 数	男	5 (1)	4 (2)	5	8	2	6 (2)	4	2	3 6
	女	3	3	5	6	9	5	0	0	3 1
	計	8	7	1 0	1 4	1 1	1 1	4	2	6 7

安来市立井尻小学校

1. 学校教育目標 夢をもち 心も体も 豊かに生きる児童の育成

【めざす学校像】

- ・笑顔あふれる学校
- ・ぬくもりのある学校
- ・落ち着きとけじめのある学校
- ・地域に開かれた学校

【めざす子ども像】

- 《**い**っぱい笑顔、**じ**つくり学ぶ、**リ**ズムある暮らし》
- ・進んで学び、表現する子ども…創造力・思考力・表現力・コミュニケーション力
 - ・互いに分かり合える明るい子ども…豊かな心・広い心・優しい心
 - ・元気いっぱい行動する子ども…実践力・意志力・体力

【めざす職員像】

- ◎子どもによりそい、子どもの変化を敏感にキャッチできる職員
- ◎自分の持ち味を生かして、自らの職務に粘り強く取り組む職員
- ◎児童や保護者・地域の方から信頼され、地域に自ら関わっていかうとする職員
- ◎温かさと厳しさをもち、常に児童の成長と向上を願う職員

2. 経営の重点

(1) 基礎学力の定着と授業改善・学習指導の充実を図る

＜**じ**つくり学ぶ：学力向上＞

- (ア) 基礎学力の定着を図る取り組みを充実させる。
- (イ) 学ぶ楽しさや追究する楽しさを感じる「わかる授業・魅力ある授業」への改善を図る。
- (ウ) 子ども一人一人の実態に応じた指導や支援など、個に応じた指導の充実を図る。
- (エ) 調べる・考える・判断する・表現する力を育てるための学校図書館活用教育の充実を図る。

(2) 豊かな心を育てる教育を推進し、人権・同和教育を基底に据えた集団づくりに取り組む。

＜**い**っぱい笑顔：社会力・人間力＞

- (ア) 互いの良さを認め合い、伝え合うことのできる集団づくりに取り組む。
- (イ) 受容的・共感的な児童理解と自己肯定感や自尊感情を育てる積極的な生徒指導を推進する。
- (ウ) 社会生活を営む基本となるルールの順守や規範意識の醸成を図る。
- (エ) 体験学習やふるさと教育等を通して、人や自然を大切にする心を育てる。

(3) 学校健康で安全な生活ができる力を育てる教育を推進する

＜**リ**ズムある暮らし：健康・安全＞

- (ア) 基本的な生活習慣の確立をめざす。
- (イ) 「体力づくり」と「食育」の充実を図る。
- (ウ) 感染症にかからないための保健安全指導の充実を図る。
- (エ) 交通安全指導の徹底を図る。

(4) 学校・家庭・地域の連携を図り、地域に根ざした学校づくり

＜地域連携＞

- (ア) 信頼関係醸成のための積極的な情報発信（「学校だより」「学級だより」「ホームページ」）に努める。
- (イ) 地域と密接につながり、地域の教育力を活用したふるさと教育の充実を図る。

3. 研究計画

(1) 研究主題

「課題意識をもち、自分の考えや思いを伝え合い高め合う子どもの育成」
～ICTの活用で児童の対話を生み、一人一人が学びをより深める授業づくり～

(2) 研究内容

- 授業や活動のねらいを達成するためにICTを活用する場面と、活用により期待できる効果を明確にした授業づくり
- 子ども同士の対話を活性化させ、一人一人の学びがより深まる授業づくり
- ICTとアナログ(板書、ノート、実体験)の特性を生かし、子どもの実態に応じた活用方法を考慮した授業づくり

4. 特色ある教育

(1) 小規模校のメリットを活かした学校教育活動を展開する。

- 豊かな教育資源を最大限に活かし、あたたかい地域の人との交流や、比婆山や伯太川をフィールドにした地域の文化や歴史・自然とふれあう学習活動を積極的に取り入れる。
 - ・地域の方と共に活動する米作り、野菜作り等の体験的な学習
 - ・保護者や地域講師に学ぶクラブ活動
 - ・高齢者とのスポーツ交流やミニデイサービスの福祉交流授業
 - ・地区の農業文化祭と共に行う「井尻っ子祭り」(学習発表会)

(2) 全校や異年齢集団で活動する機会を多く設け、一人一人が活躍できる場を設定する。

- ・全校縦割り班(ひば班)による遊びや掃除、給食、集会活動
- ・全校体制で取組むふるまい向上(規範意識・社会性の基礎の醸成)

5. 学力向上の取組

(1) 授業改善

- めざす子どもの姿を明確にし、授業の「めあて」「ふりかえり」の継続と充実を図る。
- 複式学年別授業(ガイド学習)の中で個人思考、集団思考の双方を取入れ、「伝え合う」場の時間を確保しながら主体的・協働的学習を進める。
- デジタル教材や大型提示装置などのICT機器の積極的な活用を図る。

(2) 基礎的・基本的な知識や技能の習得、家庭学習促進への取組

- ◇計算会や朝読書、めざましスキル、チャレンジタイムなど、学力定着のための取組を継続的に進める。
- ◇家庭学習充実のための「家庭学習の手引き」や「くらしのガイドブック」を作成し、保護者に配布する。

6. 学級編制 ※児童数()は特別支援学級で外数

学 年		1	2	3	4	5	6	特 支	計
学 級 数		1		1		1		1	4
児 童 数	男	0	2	0	1 (1)	1	2	1	7
	女	3	1	1	2	2	3	0	1 2
	計	3	3	1	3 (1)	3	5	1	1 9

安来市立赤屋小学校

1 学校教育目標

豊かな心をもち 健康でたくましく生きる子どもの育成

くめざす子ども像>

あかるく たくましい子（たくましい体）

かんがえ つくりだす子（確かな学力）

やさしく 思いやりのある子（豊かな心）

2 学校経営の重点

（1）人権を尊重しあう学校風土の構築

○環境を整え、隠れたカリキュラムを意識した学校・学級経営を推進し、児童・教職員一人一人の自己肯定感、自己有用感を高める取組を進める。

○特別支援教育の充実を図るため、児童理解に基づく一人一人の困り感に応じた指導・支援を推進する。

（2）確かな学力の育成

○主体的に学ぶ意欲や態度を育成するために、少人数を生かした個別最適の学びを創造し、確かな学力を育成する。

○校内研究の充実を図り授業改善に取り組む。言語能力の育成、I C T教育の推進、思考力・表現力・判断力等を育成する。

○家庭学習の習慣化（学習習慣や読書習慣の確立）に向けての家庭学習課題を工夫する。

（3）学校図書館活用教育の推進

○学校図書館活用能力・情報機器活用能力を育成し、「調べ、まとめて、発表する」情報収集・活用能力や発信力を伸ばす。

（4）赤屋学（ふるさと教育）の充実

○ふるさと教育を充実させるため、赤屋の地域ビジョンと連動した各教科・総合的な学習の時間などのカリキュラムを「環境」、「産業」、「歴史」、「交流」の4つの視点で整理することで、「赤屋」を自慢できる子どもを育てる。

○児童が考案した「赤屋ゆるキャラ」を地域に発信し、地域とともに活用方法を模索し、児童の願いを実現する。

（5）健やかな体と強い心の育成

○運動に親しむ意欲や習慣を育成するために、教科体育の充実を図り全校体力づくりを工夫する。

○健康的な生活をする意欲を育成するために、P T Aや校区のこ小中連携による「早寝、早起き、朝ごはん」の実践、メディアコントロールの習慣化を目指す。

3 研究計画

（1）研究主題

自らの学びを広め、深め、進んで表現する子どもの育成

～I C Tの活用と「きめる」学びのある授業づくりを通して～

(2) 研究のねらい

学習の基盤となる言語能力の育成を育成するために、国語科を中心に授業の中に「きめる」学びを設定したり、ICTを活用したりすることは有効であるか検証する。

4 特色ある教育

(1) 校内研究体制の充実と言語能力の育成の実践

全職員で研修を深め、主体的、対話的で、深い学びができるようさらなる授業改善をする。

(2) 子どもと共に課題に取り組むプロジェクトチームの結成

早寝・早起きをして メディア時間を減らそう <運営委員会>

家でも学校でも本と関わり、AIに負けないかしこい赤屋っ子 <情報委員会>

100%あいさつをどこでもだれにでも

花さき山の花をもっと多く咲かせよう！ <健康委員会>

(3) 地域のビジョンと連動させた「環境」「産業」「歴史」「交流」の4つの視点から整理した赤屋学（ふるさと教育）の実践と、「赤屋ゆるキャラ」を生かした保護者・地域との連携による「赤屋大好き 赤屋っ子」の育成

- ・地域と学校が同じ思いをもって赤屋大好き赤屋っ子を育てる。
- ・地域の文化や自然に親しんだり、歴史や産業について深く学んだりするとともに、そこに生きてきた人々、また今を生きる人々の素晴らしさを感じるふるさと教育を実践する。

○学校林を生かした「もりふれクラブ」との森林学習

○地域の講師を招いて実施するクラブ活動やわかばと交流会

○小竹川での川遊びや学校林を活用した森林教室などの環境教育

○高齢者クラブなど地域の方と巡る「ふるさと探訪」

○赤屋っこ農園での米の栽培や地域の方とのさつまいも栽培

(4) 自己肯定感、自己有用感を育む異年齢交流活動の充実

○縦割り班や全校での活動（縦割り遊び・遠足・掃除など）

○認定こども園赤屋との交流（学習発表会・ろここカフェへの参加・避難訓練など）

○地域の高齢者との交流（ミニデイサービス、ひな祭り会） など

5 学級編制

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	はばたき (1 年)	わかば (5 年)	計
学 級 数	1		1		1		1	1	5
児 童 数	男	1	2	1	2	6	0	0	1 2
	女	2 (1)	0	0	2	1 (1)	2	1	9 (2)
	計	3 (1)	2	1	4	7 (1)	2	1	2 1 (2)

() は特別支援学級児童外数

安来市立第一中学校

1 学校教育目標

『高い知性と豊かな心をはぐくみ、たくましく実践する生徒の育成』

校訓 自主 剛健 創造 協力

《めざす生徒像》

- 自主 自ら学び続ける生徒
- 剛健 活力ある生徒
- 創造 努力し、実践する生徒
- 協力 協力・協働する生徒

《めざす学校像》

- 夢と活気に満ち、行きたくなる学校
- 一人一人が生かされている実感のある学校
- 地域とともにある学校

《めざす教職員像》

- 学び合い、学び続ける教職員
- 教育愛あふれる使命感のある教職員
- 実践的指導力、職務遂行力のある教職員
- 人間味あふれる信頼される教職員

2 学校経営の重点

今年度の重点目標 しなやかでたくましく、「気づき・考え・実行」できる安来一中生徒を育てる
～学力向上と「あい」にあふれた集団づくりを通して～

- (1) 一人一人を大切にする教育の推進 【自己肯定感、自己有用感をもたせる教育活動の充実】
- ① 人権・同和教育を基底に据え、生徒、教職員、保護者をはじめ学校に関わる方の命・人権が尊重される組織文化を醸成する。
 - ② 豊かな心や感性を育むため、全教育課程を通じて道德教育の推進・充実を図る。また、学校図書館活用教育を推進し、豊かな心と学習への意欲を高める。
 - ③ 一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図るため、校内体制を整備し、特別支援教育の充実を図る。
 - ④ 主体的・対話的で深い学びの観点からの授業改善と評価を実施する。
 - ⑤ 学校行事、部活動等、諸活動において、一人一人の生徒が積極的に取り組み、やりがいや達成感が味わえる活動を展開する。
 - ⑥
- (2) 将来の自立に向け、必要な資質・能力や態度を育てる教育の推進 【魅力ある学校づくり調査研究事業の成果の継承】
- ⑦ 学び合いのある学習集団づくりと、家庭学習の充実を図り、個に徹した指導を行う。
 - ⑧ 見通しを立てたり振り返ったりする学習活動を重視し、ICT機器の活用などを通して、生徒の主体性を育てる授業改善に取り組む。
 - ⑨ 望ましい人間関係を形成し、よりよい集団づくりを進めていけるよう、学級活動や生徒会活動、部活動等で生徒の主体的な活動を支援する。
 - ⑩ 全教育課程の中でキャリア教育を推進し、社会的自立に向けた基礎的な力を育成する。
 - ⑪ 規範意識（日常生活や授業中のルール）の定着を図るとともに、生徒理解のための教育相談体制の充実を図りながら、個性の伸長とよりよい集団づくりをめざした積極的な生徒指導を推進する。
 - ⑫ 学校給食などの実施をとおして、食育の充実を図る。

(3) 学校・家庭・地域が連携し、一体となった教育の推進

【連携を重視し、地域とともにある学校づくりを行う】

- ⑬ 校区内の幼稚園・保育所、小学校や高等学校、特別支援学校（松江養護学校安来分教室）、教育後援会・PTAをはじめとする関係諸機関との連携、安来市中学校生徒会サミットを通じた他校との連携、地域での体験活動、高等学校等との連携授業など、一体となって校区内の子どもを育成する連携教育を推進する。
- ⑭ 各種たよりの発行やメール配信、学校ホームページにより、タイムリーな情報提供を行う。また、現状把握に努め、授業公開や学校行事などに参加しやすいよう工夫する。
- ⑮ 明るいあいさつや規則的な生活リズム、家庭学習等の習慣を家庭と連携し定着を図る。

(4) 業務改善を図り、組織的な学校運営の推進

【教職員の協働を促進する職場環境の構築】

- ⑯ 業務改善を推進するためのプロジェクトチームを中心に、教職員の組織的な取組として進める。
- ⑰ 年間を通じた服務に関する研修やOJTによる研修を実施する。
- ⑱ 各種調査・アンケート項目を学校評価指標等に設定し、具体的で実効性のある学校評価・評価システムを実施する。

3 研究計画

(1) 研究主題 つながり、高め合う生徒の育成

～ 生徒が主体的に取り組む授業のための指導と評価のあり方 ～

(2) 研究の重点

- ① 学習に主体的に取り組むための授業改善
- ② 適切な学習状況の見取り方と評価方法
- ③ つながり、高め合う人間関係づくり
- ④ 教職員研修の充実

4 特色ある教育

【重点1】学習意欲を高める授業改善と学力向上の取組

- 学び合いのある学習集団づくり・・・ペアや小グループでの活動を全教科等で効果的に取り入れる。
- 見通しをもったり振り返ったりする学習活動を重視し、生徒が主体的に学ぶ授業づくりを行う。
- ICT 機器を活用し、生徒の活動時間をしっかりと確保する授業展開を工夫する。
- ◇家庭学習の習慣化を図るため宿題を計画的に出し、提出チェックを徹底し基礎学力の定着を図る。

【重点2】集団づくりの取組

- 学級活動や生徒会活動、部活動、毎週行う学年朝礼などにおいて生徒が主体的に活動する場を設定し、その活動を積極的に支援する。（自己存在感、自己有用感をもたせる）
- 日常生活や学習場面において集団ルールの定着を図り、お互いが安心して生活できるよう生徒指導を充実させる。（共感的な人間関係づくり）
- あたたかい人間関係を醸成し、不登校やいじめの未然防止と適切な初期対応を行う。

5 学級編制（5月1日現在） ※生徒数（ ）は特別支援学級で外数

学年	1年生	2年生	3年生	支援学級	計
学級数	5	4	4	4	17
男子	76(4)	49(4)	84(1)	9	218
女子	75(4)	75(1)	60(1)	6	216
計	151(8)	124(5)	164(2)	15	434

安来市立第二中学校

1 学校教育目標

『広い視野に立ち 安来の未来を切り拓く 心豊かな生徒の育成』

《めざす生徒像》

〈意〉困難な課題に あきらめずに粘り強く取り組む生徒

〈知〉自ら課題を見つけ 他者と協働して考え 確かな知識・技能をもとに判断し 表現する生徒

〈徳〉自他を大切にし 思いを行動で表すことができる生徒

〈体〉健康に関心をもち 主体的に心身を鍛える生徒

2 学校経営の重点

『進路保障の理念を学校経営の基盤とし、安来の未来と自らの生き方を関連づけた学習をカリキュラムの軸とすることで、家庭、地域と協働し、自立して未来を切り拓く生徒を育てていく』

(1)進路保障を柱とした人権教育の推進

○教職員自らが人権感覚を磨き、生徒の規範意識を育て、人権が尊重された学校環境づくりを行う。

○学年ごとに発達段階を踏まえた重点人権課題を決め、年間計画を立てて人権学習に取り組む。

○アンケートQ-Uを活用し、居場所づくりと絆づくりの場をつくることを大切にしたい学校、学級、学年経営を行う。

(2)確かな学力の育成

「よい学級、よい授業、よい家庭学習」を学力向上スローガンとし、確かな知識・技能を基盤とした主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。

○総合的な学習の時間を軸とした教科横断型のカリキュラムをもとに、各教科で単元単位の指導と評価の計画を立て、単元評価シートを活用しながら、課題解決型の学習に取り組むことで、主体的・対話的で深い学びを推進する。

○道徳科において、考え議論する道徳の実践に取り組むとともに、道徳的価値について多面的・多角的に考えたか、自分ごととして考えたかについて、ポートフォリオでの評価を実施する。

○学校図書館を充実させる。

(3)ふるさと・キャリア教育の推進

○総合的な学習の時間、特別活動を軸として、安来の未来と自らのキャリアを関連づけて考える力を育成する。地域の教育資源を活用した教育活動を展開する。

○自らの学びを振り返り、自らの進路選択や生き方を考えるためにキャリアパスポートを活用する。

○生徒が主体となって課題を解決する活動を生徒会活動、部活動でも増やすことで、失敗体験と成功体験を積み重ねる機会をつくり、自らを客観的に見る力とともに、自己有用感、自己肯定感を育てる。

○あたりまえのことをあたりまえのこととして、極める。ふるまいの向上を常に意識する。

(4) 社会に開かれた学校づくり

○学校の経営方針、学校経営の重点、施策等を家庭、地域に発信、共有し、学校評価を活用した双方向型のPDCAサイクルを構築する。PTAとの協働による教育活動の充実を図る。

○家庭、地域との信頼関係を構築するために、各種たより、HP等での情報発信を行う。

3 研究計画

(1) 研究主題

「総合的な学習の時間を軸とした教科横断的カリキュラムの構築」

～生徒の社会的な自立と、確かな学力の育成をめざして～

(2) 具体的な取り組み

①「総合的な学習の時間」の改善

ア 地域課題を探究テーマとし、その解決のために地域のひと・もの・ことを活用するよう、3年間の探究サイクルを改善する。

イ 各教科等でつけた力が、総合的な学習の時間で活用されるよう教科横断的カリキュラムを構築する。その際、各教科等でめざす知識・技能と、すべての教科で共通して育てる資質・能力（いわゆる基礎的・汎用的能力）を整理する。

②各授業の授業改善（二年次は総合的な学習の時間を主に研究する教科等として実践）

生徒が主体となって課題を解決する活動を増やし、育てたい資質・能力を明確にした授業改善を各教科で行い、その資質・能力を活用するために、総合的な学習の時間を軸とした教科横断的カリキュラムを構築する。

③基礎・基本と学習習慣の定着

ア 定期的な放課後補習、長期休業中自主学習会等を実施し基礎・基本の確かな定着を図る。

イ 家庭学習の課題を工夫し、主体的な学習習慣を身につける。

4 特色ある教育

『地域課題を探究テーマとした総合的な学習の時間』

ア 地域課題を探究テーマとし、その解決のために3年間の探究サイクルで、地域のひと・もの・ことを活用する。

イ 教科横断的カリキュラムの構築により、各教科でつけた力を総合的な学習の時間で活用する。

5 学級編制

学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援		計
				知的	自閉症・情緒	
学級数	1	1	1	1	1	5
生徒数	26	28	23	1	2	80
男子	15	21	8	1	2	47
女子	11	7	15	0	0	33

安来市立第三中学校

1 教育目標

温かくたくましい人間力をもった生徒の育成

【校 訓】 自主 誠実 協同 健康

【めざす生徒像】

- 自ら考え判断して行動し、生涯にわたって学び続けようとする意欲をもった生徒
- 真心を込めて行動し、責任を果たす実行力のある生徒
- 自他を大切に研かれた人権感覚をそなえ、助け合いながら切磋琢磨する生徒
- 心身ともに健康で、個性豊かな、活力ある生徒

2 学校経営の重点

(1) 基礎的な学力の定着・学習習慣の確立と、思考力・判断力・表現力等の育成

- ① 基礎的な学力の育成と学習習慣の確立
- ② 思考力・判断力・表現力等の育成
- ③ わかる授業づくりとICT活用

(2) 生徒理解の推進と個に徹したきめ細かな指導

- ① 生徒理解の推進
- ② 個に徹したきめ細かな指導

(3) 温かい人間関係と自治的な能力を培う学級・学校経営

- ① 温かい人間関係の育成
- ② 自治的な能力の育成

(4) 小中の連携教育と開かれた学校づくり

- ① 校区の小学校との連携
- ② 開かれた学校づくり

(5) 安心・安全で、落ち着いた教育環境の整備

- ① 安心・安全で、落ち着いた教育環境づくり
- ② 適切な言語環境づくり

(6) 教職員の資質の向上

3 研究計画

(1) 研究主題

豊かな関わり合いの中で、主体的に課題を解決していく生徒の育成

(2) 研究内容

- ① 学習スキルの習得と学習習慣の確立
 - ・ 「めあて」の提示、「まとめ」の整合性を重視した授業の展開

- ・ 視点を明確にした振り返りの時間の確保と方法の工夫
- ・ 繰り返し学習、個に応じた指導の工夫

② 思考力・判断力・表現力等の育成

- ・ 「言語活動」を重視した学習の展開
- ・ 獲得した知識、技能を「活用する場面」、「思考する場面」の設定
- ・ 体験的な学習を通した探究的な学びの展開
- ・ 課題解決場面における学校図書館を活用した学習の展開
- ・ すべての教科における学校図書館の活用の追究
- ・ ICTを活用した学習の展開

4 特色ある教育

(1) 生徒の自治的活動と、地域との協働による人権・同和教育の推進

- ① 人権集会、「いじめを考える」学級討論・全校生によるパネルディスカッション
- ② 「人権・同和問題学習」に係る授業の地域への公開(交流センター、隣保館、諸団体との連携)
- ③ 「人権講演会」の実施(PTA、交流センターとの連携)

(2) 青少年赤十字の目標「気づき、考え、実行する」に基づいた学習の推進

- ① 地域と共に取り組む防災学習(総合的な学習の時間)
 - ・ 「自助・公助・共助」を柱とした学習計画とカリキュラム・マネジメント
- ② 地域の交流センターとの連携によるボランティア学習
 - ・ 「子ども読書会」「町民体育大会」「飯梨こどもクラブ」「王陵の丘健康ウォーク」「荒島テント村」「あらしまこーふんふえすた」等へのボランティアスタッフとしての参加
 - ・ 青少年赤十字活動としての募金活動
- ③ いのちの学習… 生と性を考える
 - ・ “バースデイプロジェクト”の出前授業、一人一体の実習体を使った救急救命法等

5 学級編制

学 年		1 年	2 年	3 年	特支	計
学級数		2	2	2	3	9
生徒数	男	3 0 (4)	2 5 (6)	3 2 (1)	1 1	8 7
	女	1 8	2 8 (1)	2 7	1	7 3
	計	4 8 (4)	5 3 (7)	5 9 (1)	1 2	1 6 0

() は特別支援学級生徒内数

安来市立広瀬中学校

1 学校教育目標

(1) 校訓 進取向上

(2) 学校教育目標

「ふるさとを愛し 人間性豊かに たくましく生きる生徒の育成」

(3) めざす生徒像

- ・広い視野に立ち、自ら進んで考え実行する生徒
- ・感性と想像力を磨き、仲間とともに向上する生徒
- ・心身ともにしなやかに、たくましく、創造力に富む生徒
- ・将来の夢や目標をもち、その実現に向かって努力する生徒

(4) 学校経営の基本方針

- ・教職員・生徒・家庭・地域相互の信頼関係を基軸とし、一体感・躍動感のある学校経営に努める。
- ・人権尊重の精神を大切にし、豊かな情操（感性・想像力）を育む教育の推進に努める。
- ・学びの意欲を持ち、自己の生き方を考えながら将来を切り拓こうとする生徒の育成に努める。
- ・地域資源を生かした教育活動を推進し、ふるさとに愛着と誇りを感じる生徒の育成に努める。

2 学校経営の重点

「信頼・絆を礎に、夢を語り、挑戦する生徒の育成」

(1) 自ら考え、行動できる生徒の育成と集団力の向上

- ・多様な個性を認め合い、自他を尊重し合う集団づくりと環境づくりに努める。
- ・広中ブランドを一人ひとりが自分事として考え、実践していくとともに、集団でのブランド力向上をめざす。
- ・夢や目標を描き、語り、つかもうとする気運を高めるために、キャリアパスポート活用や生徒の自治的活動を推進する。

(2) 社会の中で生きて働く学力の育成

- ・学校図書館や ICT を積極的・効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」となる授業をめざす。
- ・実態の多面的把握に基づいた指導体制と評価の工夫・改善を重ね、集団での学びと個に応じた学びを充実させる。
- ・家庭と連携しながら、家庭学習の習慣化や質の向上を支援し、粘り強く取り組む態度や、学習方法・時間等を調整していく力を培う。

(3) 健やかな心身の育成

- ・全ての教育活動を通じた道徳教育を推進し、個々の生徒の道徳的実践力の向上に努める。

- ・多様な健康課題への対応、ネットモラル指導、感染症対策等、健康で安全な生活を営んでいくための対応と指導の充実に努める。
 - ・生徒たちが目標を持ち、主体的に取り組む、健全で教育的な部活動運営を進める。
- (4) 地域とともに発展する学校づくりの推進
- ・様々な地域資源を理解し、触れ合い、発信するなどの活動を工夫し、ふるさと教育の一層の充実に図る。
 - ・学校教育活動の評価や改善に向けた提案など、地域の声や絆を大切にし、地域の活力となる学校づくりに努める。

3 研究計画

(1) 研究テーマ

未来へつながる思考力・判断力・表現力の育成
～互いが高まる伝え合い活動を通じて～

(2) 研究実践の重点

◇主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくり

◇人権教育の推進、キャリア教育・ふるさと教育・総合的な学習の時間の充実

4 特色ある教育

(1) ふるさと教育の推進

校区の多様な資源（ひと・もの・こと）に触れ、「知る・体験する・発信する・貢献する」学びを繰り返し展開する中で、ふるさと広瀬に対する愛着と誇り、地域貢献への意欲を育てる。

(2) キャリア教育の推進

進路に関する学びを系統的に積み上げることで、多様な視点で社会参加の在り方を考える意識や態度を育てる。キャリアパスポートの活用を通して、夢を描き、語り、挑戦しようとする意欲を高めるとともに、自己の成長・変容への気づきを促し、キャリア形成を図る。

(3) 学校図書館活用教育、ICT活用教育の推進

学校図書館並びに ICT 機器を効果的に活用し、情報活用能力の向上を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」となる授業づくりの一助とする。

5 学級編制

学年		1	2	3	支援学級	計
学級数		2	2	2	2	8
生徒数	男	21 (2)	31 (1)	24 (1)	4	80
	女	20 (1)	18 (0)	36 (1)	2	76
	計	41 (3)	49 (1)	60 (2)	6	156

() は特別支援学級生徒外数

安来市立伯太中学校

1 学校教育目標

「豊かな人間性と自主的精神に満ちた生徒を育てる」

校訓 独立 協力 技術

【めざす学校像】

- ・「安全安心を実感できる学校」
- ・だれもが学び、進化・発展する「学ぶ学校」
- ・地域に存在を喜ばれ、「地域とともにある学校」

【めざす生徒像】

- ・自ら考え、判断し、行動する生徒
- ・多様な他者と協働する生徒
- ・豊かな発想をもち、創意工夫する生徒

【めざす教職員像】

- ・多様な価値観を尊重する教職員
- ・他者と合意形成を図り、協働する教職員
- ・挑戦し、試行錯誤しながら粘り強く取り組む教職員

2 学校経営の重点

「トライアル&エラー 地域とともに進化する伯太中」 次の力・スキルを高める

(1) 自己を調整する力の向上

- ① 自己を理解する
 - ② 感情や行動をコントロールする
 - ③ 見通しをもって粘り強く取り組む
 - ④ 振り返って次につなげる
- ・キャリア・パスポートの活用 ・セルフPDCA指導の充実
 - ・通級指導教室の活用 ・教育相談の充実

(2) 多様な人と協働する力の向上

- ① 適切に援助を求める
 - ② 他者の立場に立って思考する
 - ③ 他者と合意形成しながら行動する
- ・人権教育の充実 ・道徳教育の充実 ・生徒が主体となる活動の推進
 - ・地域の「ひと・もの・こと」とふれあう体験活動の充実

(3) 言語や情報を使いこなす力の向上

- ① 言語と技能をみがく
- ② 知識を関連づけ、深く理解する
- ③ 思いや考えを他者に伝える・受けとめる
 - ・ I C Tを活用した協働的な学びの充実 ・ 予習・復習・自学指導の充実
 - ・ 学校図書館活用教育の充実 ・ 各種検定・コンクール参加の推進

3 研究計画

(1) 研究主題

「協働的に学び、課題を解決しようとする生徒の育成」
～ I C Tの効果的な活用を通して～

(2) 研究実践の重点

- ① 授業づくり
協働的に学ぶための I C Tの効果的な活用実践
- ② 集団づくり
協働的に学ぶための基盤づくり・・・思いを伝え合う場の設定

4 特色ある教育

(1) ふるさと教育を基盤としたキャリア教育

ふるさと伯太の教育資源「ひと・もの・こと」を活用した体験的・探究的な学習を通して、よりよく問題を解決し自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。

(2) I C T活用教育

全学年・全教科で I C Tを活用した個別最適な学び・協働的な学びを充実させ、主体的・対話的で深い学びにつなげる。

5 学級編制

学年		1 年	2 年	3 年	支援学級	計
学級数		1	2	1	2	6
生徒数	男	1 6 (4)	2 3 (2)	1 7	6	6 2
	女	1 5	1 9 (2)	1 7	3	5 3
	計	3 1 (4)	4 2 (4)	3 4	9	1 1 5

() は特別支援学級生徒外数

高校魅力化推進事業について

政策推進部やすぎ暮らし推進課

1. 経過

平成31年に島根県教育委員会は、地域や社会の未来を切り開くために必要な「生きる力」を育むための教育方針を示す「県立高校魅力化ビジョン」を策定した。

本市においても、地域とともにある魅力ある高校づくりの推進のため、高校魅力化コンソーシアムへの参画や高校魅力化推進員の配置等を行い、本事業を通じて「地域の魅力化」と地域を担う人材の育成・人材環流サイクルの構築を推進している。

○高校魅力化コンソーシアム

・・・高校と地域の多様な主体が参画し、魅力ある高校づくりに取り組む協働体制

・情報科学高等学校：令和2年4月設置

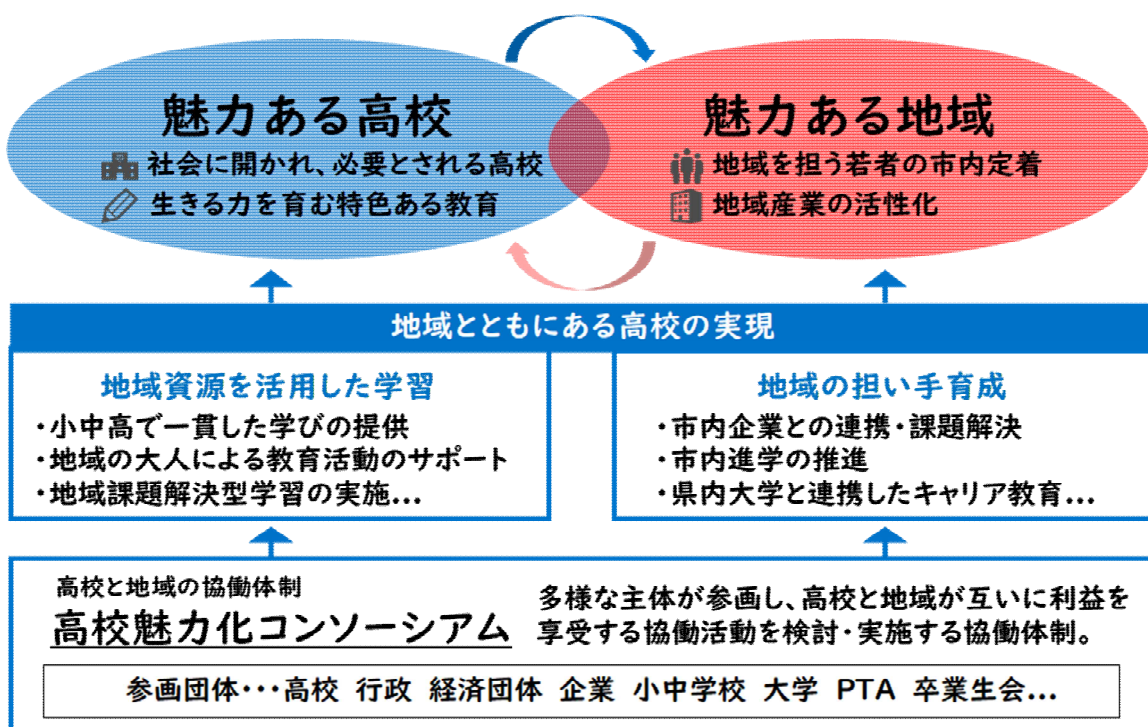
・安来高等学校：令和4年2月設置

○高校魅力化推進員

・・・高校魅力化コンソーシアムの運営、地域課題解決型学習のサポート等、地域と高校の協働活動を支援するコーディネーター

・令和4年11月に1名増員（計2名）

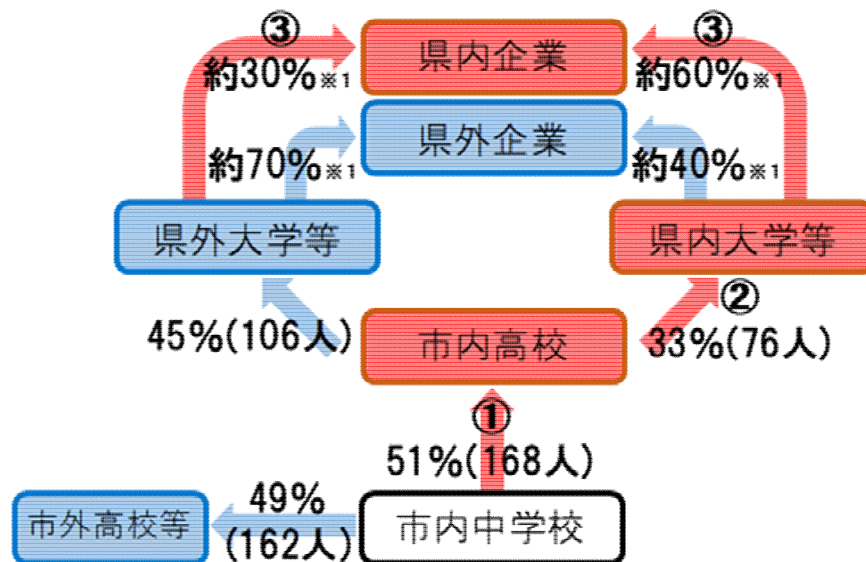
〔高校魅力化推進事業のイメージ〕



2. 若者の地元定着について

本市において、高校等進学時、大学等進学時、就職時に多くの人材流出が生じていることから、下図①～③（下図赤矢印）の割合を増加させる取り組みが必要である。

〔若年層の人材流出イメージ〕



※1：R元年度ジョブカフェしまねの大学調査の県内就職率から算出した概数
 高校・大学への進学率：R3年度卒業生実績

3. 事業戦略

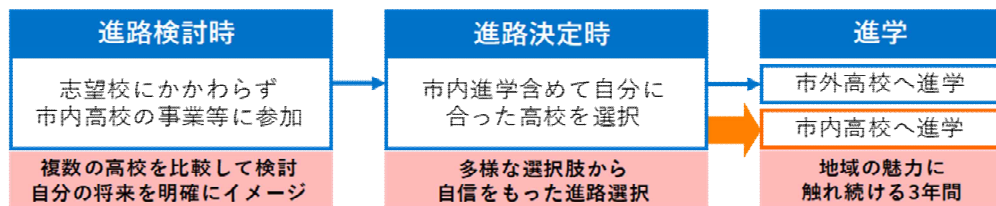
人材流失の各段階に応じ、関係機関と連携して効率的な施策を展開する。

①中高連携事業

中学校と高校の関わりを強化し、地元高校の魅力を十分に伝えた上で、自信のキャリア形成に応じた進路選択を推進する。

- ・中学校と高校の連携事業支援（コンソーシアム等）
- ・高校オープンスクール、体験講座等の中学生対象事業への参加推進

〔理想的な進路決定の流れ〕



②高校魅力化推進事業における高大連携事業

県内大学との連携事業等の企画・実施により、高校生の地元進学及び将来的な地元企業への就職を推進する。

- ・島根県立大学との連携（KENDAI 未来アトリエ事業等）
- ・島根大学との連携（次世代たたら協創センターNEXTA との企画実施等）

③若年層の定住推進事業として別事業で実施

総合教育会議資料

安来市 I C T 整備に伴う授業改善について

1. 活用状況について

市内 6 校の小学校が 3 台の Pepper を前期、後期に分けて活用した取組を行っている。

- ・前期：荒島小学校、赤屋小学校、宇賀荘小学校
- ・後期：飯梨小学校、井尻小学校、赤江小学校

前期に活用した小学校の取組は以下のとおりである。

2. 小学校における Pepper の活用事例について（前期）

（1）荒島小学校

1～2 年生は「学活」で、3～6 年生は「総合的な学習の時間」でプログラミング学習をしている。

1～2 年生は、自分が考えた言葉や動きなどを「ロボブロックスアプリ」を活用して入力し、Pepper を思い通りに動かすことができた。

3～6 年生は、発達段階に応じて Chrombook を使って自分の自己紹介をプログラミングし、そのプログラムに従って Pepper がそれぞれの自己紹介をする学習を行った。

また、特別支援学級では、国語のローマ字学習として 1 名の児童がドロップニュースを作成し、職員室前で他の児童が自由に見ている。

（2）赤屋小学校

児童の動線を考えた 1 階昇降口廊下付近に設置することで、日常的に児童が Pepper とふれ合い、会話を楽しめるようにしている。また、「あいさつ運動アプリ」を活用し、毎

朝 Pepper が昇降口で児童を迎えると共に、設定した時間に児童と Pepper が朝の挨拶を交わせるようにした。

特別支援学級児童が、毎朝、「ラジオ体操アプリ」を活用して、Pepper や教職員と一緒にラジオ体操を行った。他にも、児童が、ALT と一緒に「英会話アプリ」や「サイモンズセイアプリ」等を活用し、Pepper と英会話に親しんだ。

また、児童が、休憩時間等に「ロボドリルアプリ」を活用し、楽しみながら学習を行った。

「お楽しみクラブ」では、児童がプログラミングを行い、Pepper を思うように動かしたり、話ができるようにしたりした。

さらに「イベント案内アプリ」を活用し、Pepper の動きや音声、画面表示を通して、来客や保護者に該当する会場案内をした。

(3) 宇賀荘小学校

「ラジオ体操アプリ」を活用して子どもたちとラジオ体操をした。

1. 2年生は「英会話アプリ」を活用して英語に親しんだ。また「写真アプリ」や「ロボドリルアプリ」を活用して楽しみながら学習できた。

1～2年生は「学活」で、3～6年生は「総合的な学習の時間」でプログラミング学習を行った。

知的障がい学級の児童は、上記のアプリを活用して、自ら操作して体を動かしたり、学習したりする等主体的な姿が増えた。

自閉症・情緒障がい学級は「ロボブロックスアプリ」を活用して、プログラムを試行錯誤しながら、あいさつや自己紹介したりするプログラムを完成させた。取組に向かう姿勢はすばらしく、児童の持っている力を引き出す機会になった。

情報科学高校との協働による人型ロボット「Pepper」の活用について

1. 事業概要

情報科学高校の生徒（部活動：情報科学部3名）に開発をしてもらったプログラムを搭載した「Pepper」を、IT City Yasugi のシンボルとして、安来庁舎1階の総合案内に設置し、来場者の目的別にフロア案内を行う。

2. 目的・効果

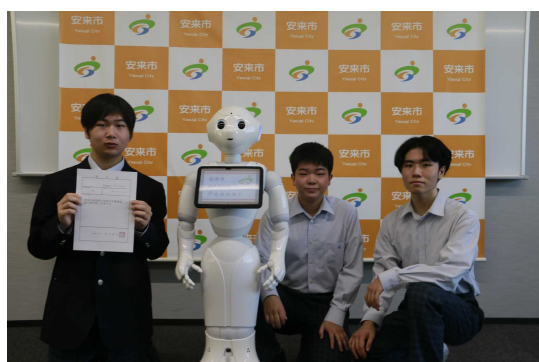
少子高齢化・人口減少により労働人口も減少している中、IoT や AI といった先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題を解決していく社会のあり方が目指されている。このような社会の実現にはデジタル人材が不可欠であり、本事業では将来社会で必要とされる人材を育成することを目的としている。

情報科学高校と協働することで教育貢献ができる。具体的にはアウトプット力を高めると同時に、クリティカルシンキング（批判的思考力）や協働の意欲を育むことができる。一方、情報科学高校としても知識の習熟度を高めるとともに、社会実装を通じて地元への社会貢献が可能である。また、プログラムは年々更新され、卒業生の年輪として残すことができる。

3. 状況報告

- 4 月末 Pepper 納品
- 5 月 24 日 Pepper 着任式（生徒が作成したプログラムにより挨拶）
- 5 月～10 月 プログラム開発
- 10 月末 Pepper 総合案内設置

※その他にも議会や市民向けセミナーにて会場案内役として稼働



※5月24日の着任式の様子